

山川町町制施行50周年・閉町記念誌

懐郷の想い

山川町町制施行50周年・閉町記念誌

懐郷の想い

Contents

- 01 春夏秋冬 山川の彩り
 - 02 紅に染まる山川
 - 04 新緑・霊峰高越山が育む自然
 - 06 紺青の大河・清流吉野川と共に
 - 08 雪白の大地に息づく悠久の里
 - 10 山川町の昔ばなし お高越あんの大天狗
- 11 躍動。山川にこだまする熱き想い
 - 16 山川町の昔ばなし 赤岩の将監狸
- 17 セピア色の思い出。50年の歩み
 - 18 山川町写真展～私の一枚～
 - 20 夜明け前 山川町誕生物語
 - 21 '55-'64 [昭和30年～39年]
 - 24 COLUMN 合併当時の庁舎と組織
 - 25 '65-'74 [昭和40年～49年]
 - 30 COLUMN 山川町章制定
 - 31 '75-'84 [昭和50年～59年]
 - 36 COLUMN ふいご温泉とこうつの里。
二人三脚の観光推進。
 - 37 '85-'94 [昭和60年～平成6年]
 - 42 COLUMN 山川町の橋
 - 43 '95-'04 [平成7年～平成16年]
 - 48 COLUMN 山川町と共に50年。
- 49 山川の歴史は人の歴史
 - 50 山川町に生まれた偉大なる政治家 芳川顕正
 - 52 私の山川町
 - 54 恩人の言葉
 - 57 未来へ。21世紀の主役たち
 - 58 COLUMN 太古の山川町
- 59 魅力再発見。
 - 63 ILLUSTRATION MAP OF YAMAKAWA
- 64 発刊にあたって

霊峰高越山の袂、
清流吉野川のほほ中央に、
澄んだ空気と清らかな水に育まれた
自然豊かな土地がある。
そこは四季折々に表情を変え、
人々の心をも豊かにする大地。
悠久のむかしから変わることの無い風光が、
やさしく語りかけてくる。

山川の彩り

春
夏
秋
冬

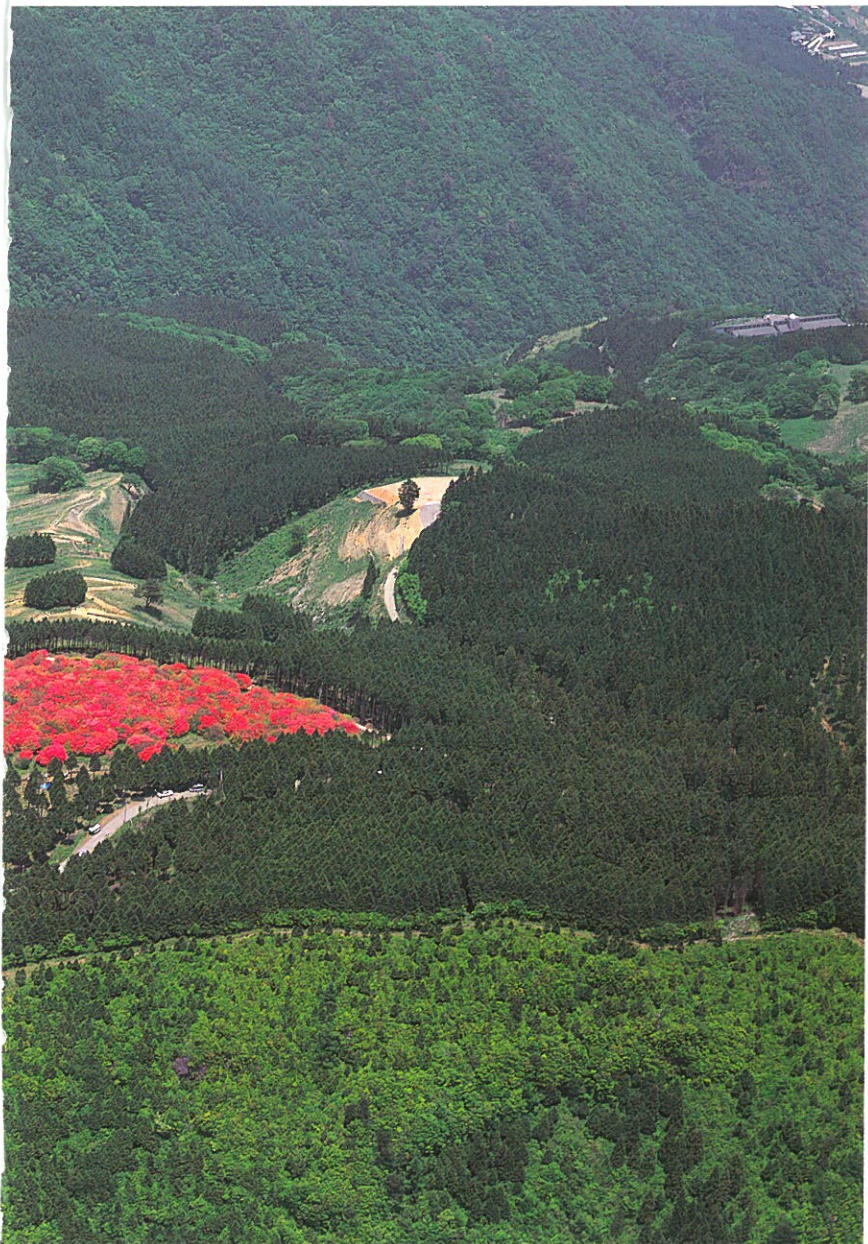


紅に染まる山川

年に二度、静かな大地が紅に染まる。

それまで厳かだった大地が、本性を現した瞬間にも見え、自然の奥深さと生命力を肌で感じる。

この土地のもうひとつの表情が見えたような気がした。



船窪ツツジ公園

標高、〇六〇m、船底型に窪んだ火山灰の平地

約三五ヘクタールのこの公園には、

オンツツジを中心に約二、二〇〇株ものつつじが

大群生を形成している。

四月下旬から開花が始まり、

五月中旬のピーク時には、

群落の九〇%を占めるオンツツジが

朱赤色の巨大な花を咲かせ、

明かり一面を紅に染める。



昭和六十年十月には
「船窪のオンツツジ群落」として
国の天然記念物に指定される。

春夏秋冬
山川の彩り



高越溪谷
十月上旬から
下旬にかけての
紅葉の季節には、
神秘的な美しさが
ハイカーの目を
楽しませてくれる。



つつじは町の花。
オンツツジは町の木にも
指定されている。
巨大なものは
高さが五〜六メートル、
広さが六畳ほどもある。

新緑・霊峰高越山が育む自然

一步山に入ると、そこは深緑の迷宮。

霊峰の神秘性か、まるで時間の流れが止まったように、心地よい薫風が駆け抜ける。

山深い溪谷はその一辺が歴史から切り取られたように静かに佇んでいた。



高越山

南西部にそびえる
標高一、三三〇の高越山は、
「阿波富士」とも呼ばれ、
その美しい景観は
県立自然公園に
指定されている。

春夏秋冬 山川の彩り



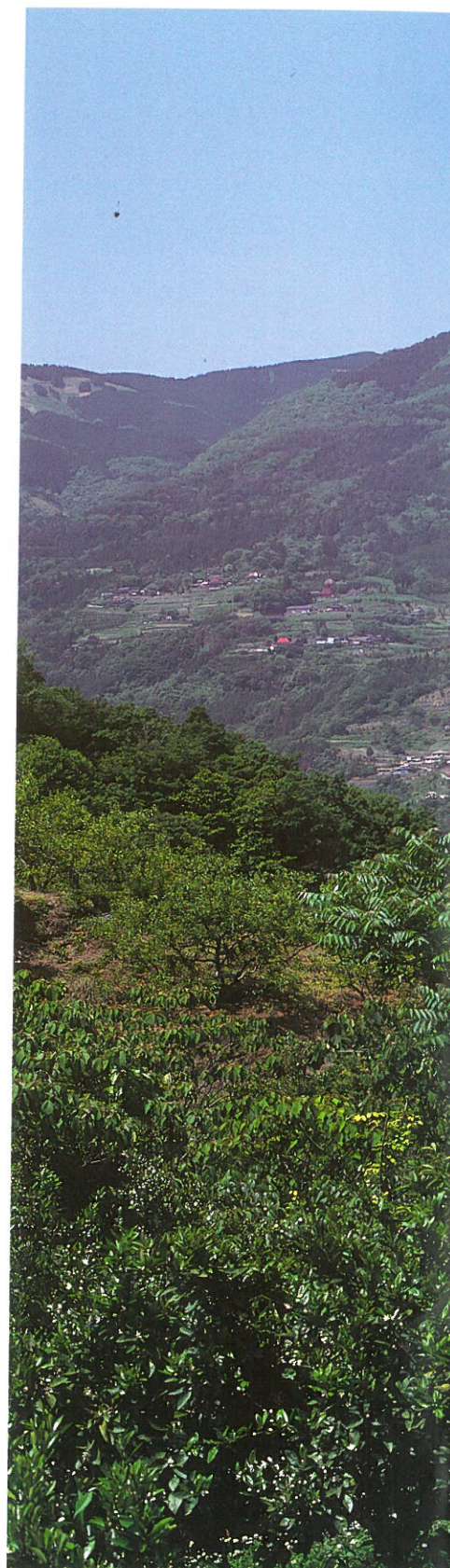
高越寺本堂

七世紀の開基と伝えられる高越寺。八〇年には、当時二十八歳だった弘法大師もこの山に登って修行したと言われている。



井田の大楠

数百年以上昔、この土地に井田神社があり、その神木として残されたもの。全長二十四m、樹齢は四〇〇年と推定される。



奥野井放牧場

雄大な自然の中に溶け込んだ放牧場。牛たちがゆつくりと草を食べるのどかな風景は、山川町のもう一つの風景。

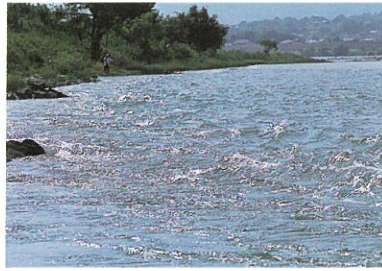


山川バンブーパーク

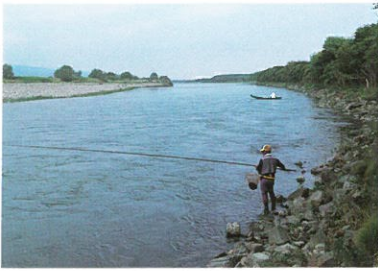
大人も子供も楽しめる人工自然公園。昆虫採集や野草の観察はもちろん、水遊びやアスレチックもできる。

紺青の大河・清流吉野川と共に

「四国三郎」の異名を持つ吉野川。「坂東太郎」こと本州の利根川、「筑後次郎」こと九州の筑後川と並び、一度暴れだすと人々の手に負えない天下の暴れ川としてこの名前がある。そんな吉野川とともに生きてきた人々がいる。



高知県に
源を発する吉野川は、
東へと流れていく。



吉野川の豊かな恵みが、
周辺地域を支えてきた。



吉野川
高越山の山裾を流れる
清流・吉野川。
満満と水を
湛えるその姿は、
太古の昔から現在まで
なんら変わることはない。

春夏秋冬
山川の彩り



川田川
数多くの景勝地が点在する川田川は、
町の中央部を北流し、やがて吉野川に出合う。



カンドリ舟のある風景は、
吉野川流域では珍しくない。



雪白の大地に息づく悠久の里

いつの頃からだろうか、人々がこの土地にやってきたのは。

星の数ほどの喜怒哀楽が通り過ぎ、数え切れない出会いと別れが交差したことだろう。

雪深い季節になると古きよき友人を思い出す。



阿波手漉き和紙

やさしい肌ざわりと
ぬくもりのある色をした手漉き和紙。
その風合いや特性は
山川町の風土の中でこそ生まれた。



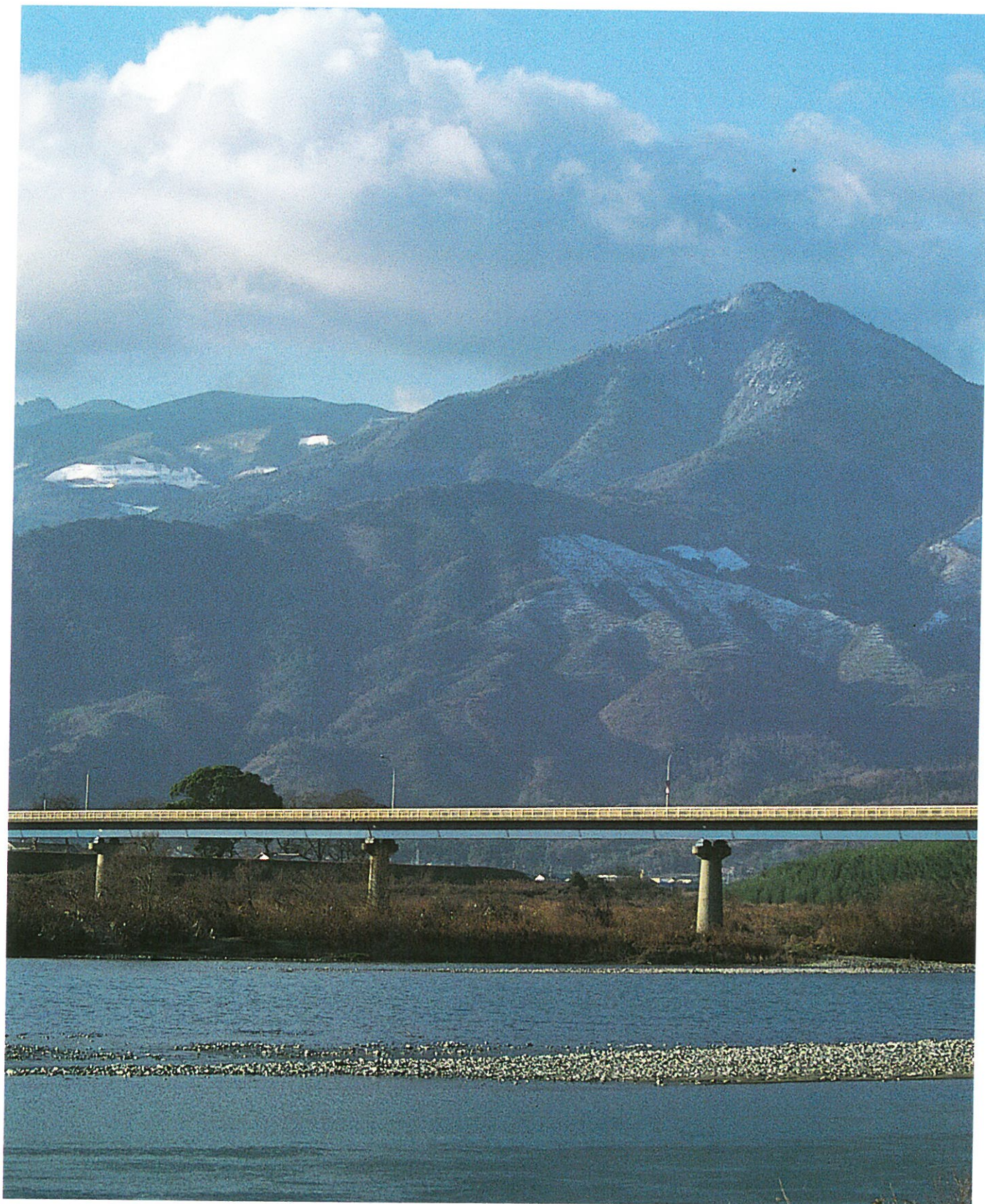
阿波和紙 伝統産業会館

昭和六十三年に、
手漉き和紙の伝統を
現在の生活空間に
生かす目的で設立される。
館内では作品展示のほか、
阿波和紙の製造工程の見学、
和紙作りの体験学習などができる。

〔連絡先〕

財団法人阿波和紙伝統産業会館
徳島県麻植郡山川町宇川東四一
TEL0883(42)6120

春夏秋冬
山川の彩り



高越山
高越山の雪景色も
また味わい深い。

山川町の昔ばなし ①

自由に空を飛び回る、身の丈二メートルの犬天狗。

お高越あんの犬天狗



昔、昔のう、ずつとずつと昔から、お高越あんに
は天狗がおつてのう。天狗ちゆうんは、背の高さが二
メートル、まつ赤な顔でながあ鼻がニューーツとつ
き出とる。まつ白な髪を「兜金とぎん」ちゆう鉢巻でとめ、一
本はまの高下駄はいて、仙人杖をついとんじゃ。

この天狗の中でも、特に偉い天狗を「犬天狗」、まだま
だ修業中の手下の天狗を「カラス天狗」というんじゃ
が、お高越あんの犬天狗は、犬天狗の中でも、特にすご
い力を持った犬天狗だったんじゃと。

思うままに空も飛べるし、姿もかくせる。夜中まつ暗
な中でも、昼間と同じように物が見える。そりゃあ、す
ごい力を持った犬天狗じゃったそつな。

この犬天狗はのう、山のてつぺんにお祭りしちやあ
る高越大権現さんのお使い役じゃった。大権現さんの
命令どおり、加賀の国の白山へ飛んだり、紀州の那智山
へお使いに行くんじゃ。ほして、大権現さんの身のまわ
りの世話をし、お守り役もしたのよ。お山へ悪い者
が入ってきはせんか、また、悪いことをせえへんか、姿
を木の間にかくし、じいつと見やるんじゃ。
なに、そんな天狗やおらんちゅうんか。

古くからは鈴や太鼓が、
最近ではギターやドラムが、
そしてそこにはいつも人々の歓声が、
山川の隅々までこだまする。
時代は変わり参加する人々は入れ替わっても、
文化に触れる人たちの素朴でけれんみの無い
生き活きとした表情は、いつまでも変わらない。

躍動。 山川に まじり こぼれ だす 相まじり いす

温故知新

百手神事(お的)

弓的を射ることによって神の意向を占う行事は、昔から全国各地で行われています。これを「お的」といい、山川町では王子神社と川田八幡神社にその習わしが残っています。

その始まりに関しては記録が無く、詳しいことは分かりませんが、町内に残る弓に文化戊午(二八〇八)の年号が銘記されており、かなり古い時代から行われていたと推測されます。また弓矢は古代から狩猟や戦の道具として欠くことのできないものであり、日ごろからその技を磨いていたことが予測されます。蜂須賀入国以来の平和な時代になつてからは、氏神に奉納する神事として「お的」が受け継がれたと思われれます。

川田山の王子神社では毎年一月十五日に「百手」として、鬼を描いた的を弓矢で射て、年中の氏子の悪魔ばらいを祈念しています。神事は正月三日から準備が始まり、当日は十人の射手が矢を放ちます。一人が二双の矢を二〇〇回、合計二〇〇本の矢を放ちます。



川田山王子神社

百手神事(お的)

合計二、〇〇〇本の矢が的を射る。
古式ゆかしい伝統行事。

拍手喝采



喜怒哀楽

YAMAKAWA 夏フェスティバル

町民一人ひとりにパワーが、
夏の山川を熱くする。



YAMAKAWA 夏フェスティバル

毎年八月に山川町総合スポーツ運動場・特設会場で開催される「YAMAKAWA夏フェスティバル」は、個性豊かなふるさとづくりの「貫」として誕生した、町民の手作りによる夏祭りです。地域活性化のイベントを実施することで、故郷の良さを再認識してもらうと同時に、イベントに自ら関わり、行動する事の大切さを一人でも多くの若者に体験してもらいたい、という思いで始めました。

「夏休み最後のイベント」を合言葉に、夏休み最後の日曜日に行く夏を惜しむという気持ちを込め、子供からお年寄りまでが一日中楽しめる様々な催しを行っています。

有名アーティストを招待して行われる野外コンサートは、普段は静寂が支配する大自然の中に、心地よい音楽が響き渡り、開放感に包まれます。ほかに約、○○○発の打ち上げ花火、約○○○店の夜店、親子ついで楽しめるゲームやイベント、手漉き和紙の体験コーナーなどがイベントを盛り上げます。



意気衝天



川田八幡神社 秋祭り

勇壮果敢な男達の姿。
石段を駆け上がる屋台の迫力に息を呑む。

秋祭り

毎年十月二十二日、川田八幡神社の例大祭の日には「秋祭り」がにぎやかに行われます。参道には川田市と呼ばれる大市が開かれ、出店が軒を並べます。神輿の渡御では町内各地から集まった四台の屋台を氏子たちが担ぎ、二〇〇m余りの参道を練り歩き、五十段の階段を気に駆け上り境内へと運びます。かつては川田喧嘩祭りといわれた勇壮な祭りで、見応えも迫力も満点です。

神代お宝踊り

この祭りで奉納される「神代お宝踊り」は、古来京の都で神いさめの踊りとして踊られていたものを、数百年前に川田村の人が持ち帰って伝えたもので、最初は豊年を祈願して氏神の社前で踊られていました。ところが嘉元元年（三〇三）、この踊りを雨乞い祈願として奉納したところ、恵みの雨が降ったので、それ以来雨乞いの踊りとしても踊られるようになりました。

明治半ばごろ一時中断されていましたが、昭和三年（一九二八）に復活。由緒が古く、その踊りの歌詞、踊り方が古風で優雅な伝統美を伝えていることから、昭和五十三年に県の無形民俗文化財に指定されました。

良風美俗



川田八幡神社
神代お宝踊り
伝統を受け継ぐ少女たち。
都の風雅漂う雨乞い踊り。



忌部神社

山崎の獅子舞

青獅子・赤獅子が勇壮に舞い踊る。
地元住民の熱意で復活した獅子舞。

鼓舞激励

山崎の獅子舞

忌部神社の祭礼に神事として行われている獅子舞は、今から二五〇年前前に現在の川島町唐戸から分身され、舞い方の伝授をうけ、忌部・天神両地区の人たちによって継承されています。この獅子舞の特徴は「走り獅子舞」といって、神前で奉納していた獅子が踊っている最中に境内から走り出て、道路や近くの民家に走り込んで舞うなどして、はやし方を手こずらせるところです。最初は虫送りの行事として村境で行われていましたが、いつのころからか豊年感謝の舞として行われるようになりました。

獅子舞の構成は大太鼓三名、小太鼓二名、青獅子の獅子使い二名、赤獅子の獅子使い二名、拍子木一名、提灯持ち四名と獅子使いの交代四名を含め、総勢十八名。若者の減少から昭和三十四年に休止に追い込まれましたが、伝統ある獅子舞をぜひ復活させたいとの地元住民の熱意が実り、昭和五十九年から復活しました。

山川町の昔ばなし ②

お将監狸は阿波狸の大関。武勇伝の数々。

あか いわ

しやう

げん

だぬき

赤岩の将監狸



昔々のう、赤岩に将監ちゆう名の狸がおつてのう。将監ちゆうのは昔のお役所の肩書きで、その名に恥じず、数ある阿波狸の中でも一、二位を争う勢力を持つとつたそうじゃ。なんでも狸の番付を見ると、大関や張出し横綱じゃつたそうな。

伊沢の鎮守の森に鎮十郎という狸がおつて、赤岩の将監狸と張りおうとつたんじゃと。しまいに大戦争になつてもつたんじゃが、はじめは将監狸が優勢で、鎮十郎は鎮守の森を撤退の危機となつたんじゃ。ほたら讃岐・屋島に使いを走らせ、有名な「屋島の禿狸」はげたぬきに応援を求めたそうな。将監狸は大いに驚いて、軍を返して居城に立てこもつたんじゃと。

持久戦になつたんじゃが、農作物を荒らされて、夜も眠れなんだ地元の村人が、たまりかねて猟師を雇つたんじゃ。兵士に化けて芝居の真似事をしとつた連中に向かつて、鉄砲を撃つたそうじゃ。ほたらそれが屋島の大将禿狸であつて、大怪我をした禿狸は屋島にいんだんじゃと。

結局、将監狸と鎮十郎との勝敗はつかなくて、合戦はうやむやのうちに終わったんじゃそうな。

この赤岩の将監狸、大阪に出て芝居をしたじゃの、江戸に出て医者になつたじゃの、そんな話もあるんじゃと。

セピア色の思い出。

50年の歩み

その名の通り、山の深い縁と
川の豊かな水に恵まれた山川町。
誕生から五十年を迎え、
気が付けば町の趣きもかなり変わっている。
そんな中、町をやさしく見守り続ける山と川は、
当時の姿と全く変わらない。そしてこれからも…。

山川町写真展

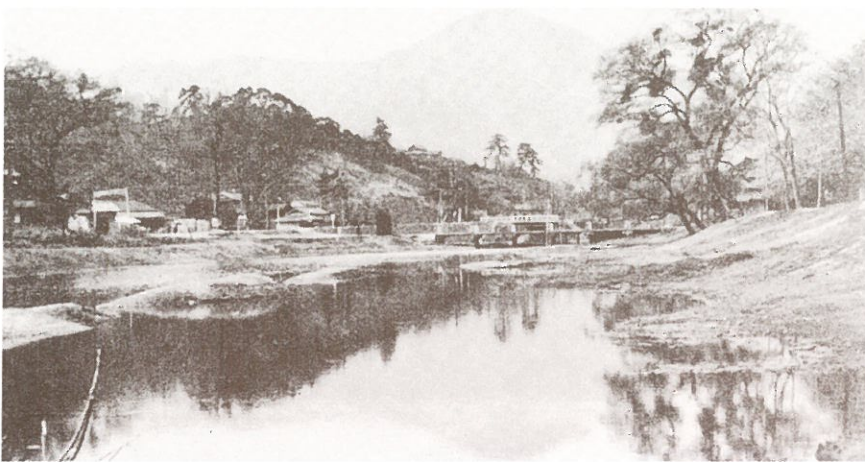
私の一枚

合併記念写真集の制作にあたり、町民の方々から貴重な写真をお寄せいただきました。ここでその写真をスペースの許す限り掲載させていただきます。写真一点一点が当時の山川町の貴重な姿を映し出しています。ぜひ鑑賞くださいませ。



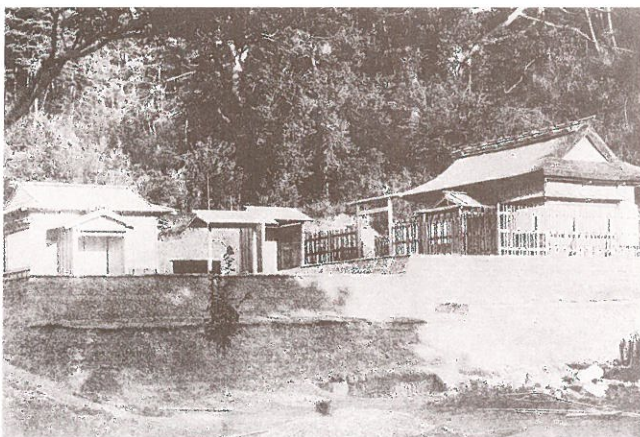
写真提供：住友 泰治

馬見尾橋 [大正14年3月]



写真提供：黒崎 重夫

螢川公園



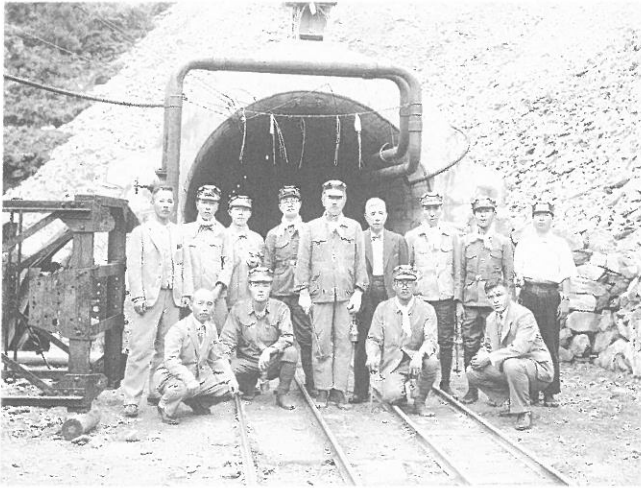
写真提供：黒崎 重夫

鹿服織殿(前) [大正4年]



写真提供：黒崎 重夫

天日鷲社



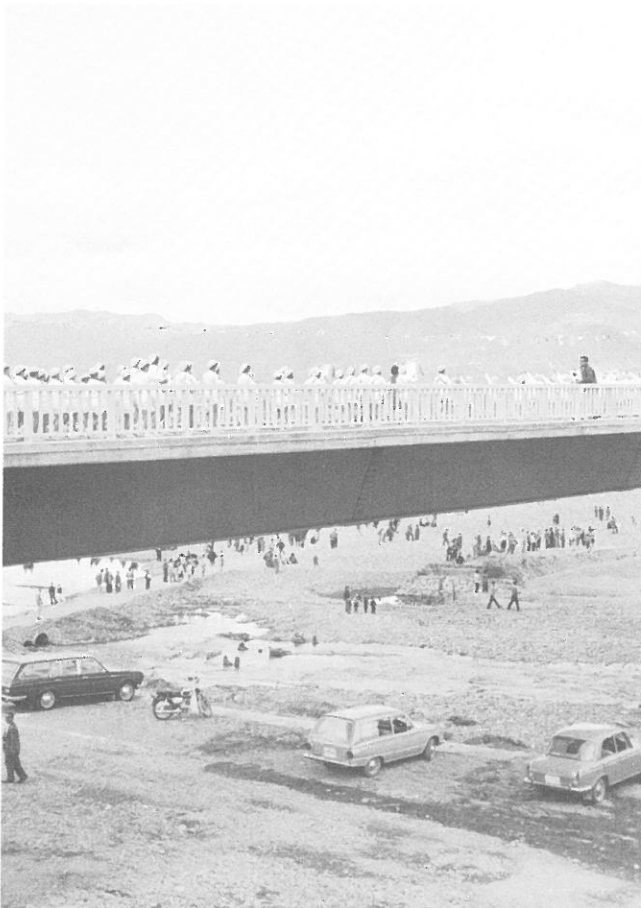
写真提供：大伏 弘子

鉱山の坑口 [昭和18年頃]



写真提供：大伏 弘子

高越鉱山全景 [昭和14年頃]



写真提供：粟飯原 理代

瀬詰大橋



写真提供：大伏 弘子

ふいご吊り橋 [昭和17年頃]



写真提供：粟飯原 理代

瀬詰大橋 [昭和41年6月]

夜明け前

山川町誕生物語

明治の町村制実施により誕生した山瀬・川田・三山の三村。

自然に恵まれ、いつもゆつくりとした時間が流れていたこの地も、いつの間にか時代の流れに翻弄されていく。やがて戦後の混乱期が一息ついたころ、「昭和の大合併」の波が押し寄せてくる。

山川町の原点 三村の歴史

明治二十二年二月十二日、大日本帝国憲法が施行、同年十月一日、町村制が実施され、山瀬村、川田村、三山村がそれぞれ設置された。当時の村長は山瀬村・長尾勝三郎、川田村・山尾修、三山村・西殿秀吉であった。

明治三十年代には郷土の重要な産業であった藍が、県内外の生産増加による価格低迷と、外国産の輸入により大きな打撃を受けた。それに加え、川俣用水が開かれるなど農耕地の整備が進んだことで、藍作から米作への転換が進んだ。

大正に入ると資本主義経済の波が三村にも及ぶ。大正五年、高越鉱山は月産二〇〇万貫以上、従業員は

五〇〇人を優に超えていた。大正十二年には山瀬村に町制がしかれ、山瀬町が誕生、五年後の昭和三年には川田村も川田町となった。

昭和二十年の敗戦は三村はもちろん全国に物的・人的打撃を与えた。しかし、民主主義の中、国民一人ひとりの努力により次第に落ち着きを取り戻し始める。やがて地方自治体の育成と交付金に関する国家財政の事情から、市町村合併が政府の方針とされ、昭和二十八年十月一日、町村合併促進法が施行、全国各地で町村合併が始まる。

山川町誕生前夜 町名への思い


山瀬町では合併促進法が施行さ

れる。二年も前の昭和二十六年に、兵庫、岡山県の合併事例を視察している。また、川田町でも昭和二十九年に京都府と広島県へ町村合併の実情調査を行っている。この年の四月、山瀬町長・三谷豊太郎が川田町へ来町、合併の申し入れをしている。それに対し川田町長・幸田昭三が書簡を送り、合併について初めて正式な交渉に入る。

山瀬町・川田町の合併に川田町との関係が深い三山村の部が加わる形で、昭和二十九年十二月二十四日、第二回三か町村合併促進協議会が開かれ、昭和三十年二月一日の新町発足を決意表明する。合併協議会も回数を重ね、合併に関する様々な要望・課題が話し合われ、新町誕生への道のりは順調に進んでいった。

ところが町名について、「川田町」の名前を残したい川田町と、「川田町」以外の名前を要望する山瀬町の間で話し合いが紛糾する。そして十二月二十二日、ついに三町村合併協議会を解散し、川田町と三山村の二町村で合併を進めることになる。これに対して県が間に入り各町村を説得することに成功。翌二十一日には新町名が「山川町」と決定された。

これは川田町長・幸田昭三が以前から暖めてきた案で、山瀬町・川田町・三山村の二字を取り「山川」と名付ける。「山」は名山・高越山を、「川」は清流・吉野川を表していた。



'55▶'64

昭和30年▶昭和39年

3町村が合併し、 山川町誕生。

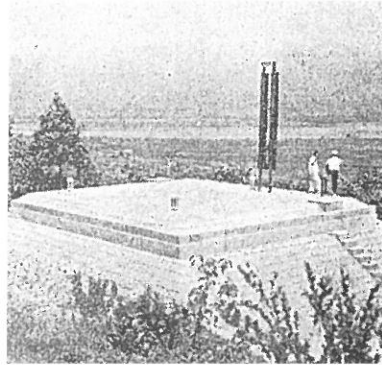
昭和30年1月1日、山瀬町・川田町と三山村の一部が合併し、
総面積43.84km²、総人口15,387人の山川町が誕生。

初代町長には石本宏一氏が就任。

新庁舎(現旧庁舎)建設、工場誘致、保育所の設置、
橋の建設など都市基盤整備に注力する。



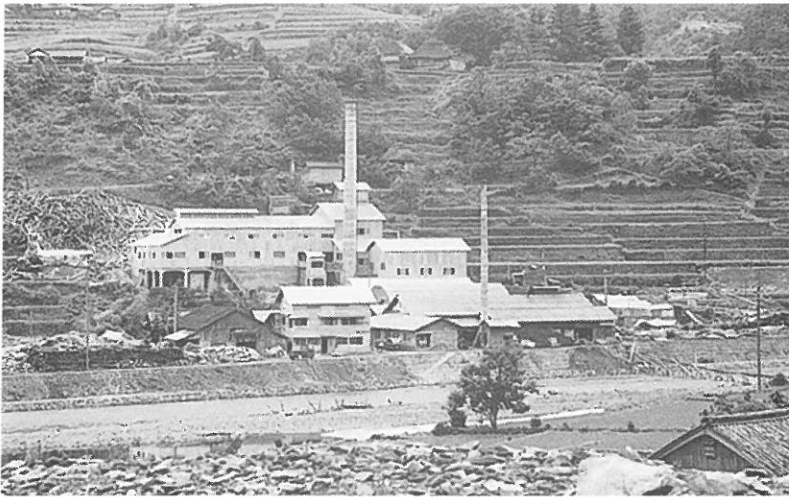
大阪繊維株式会社徳島工場 [昭和33年]



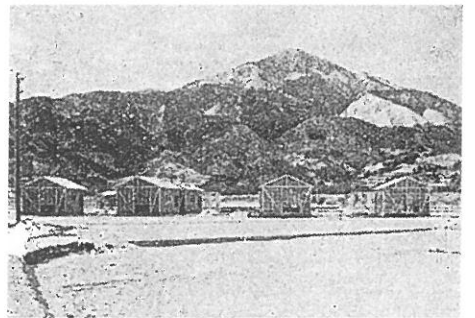
簡易水道貯水池完成 [昭和33年]



合併当時の庁舎 [昭和30年]



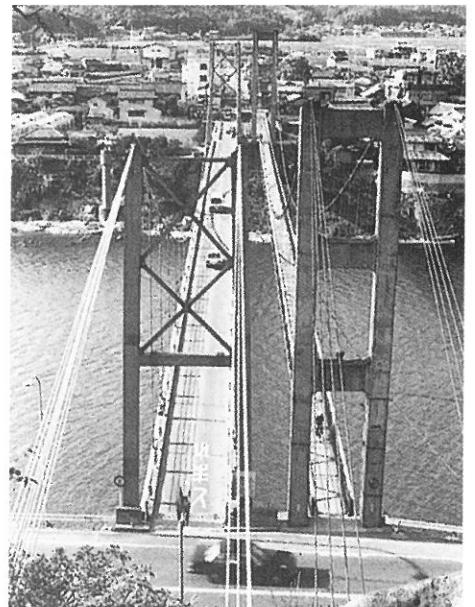
高越製紙 [昭和33年頃] 写真提供：犬伏 弘子



町公営住宅建設工事

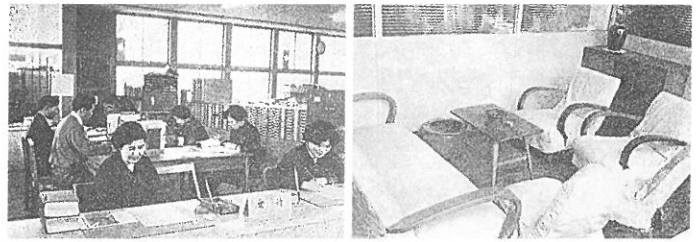


山瀬小学校



昭和33年開通岩津橋 (右) 昭和46年開通岩津橋 (左)

- 昭和30年(1955)
 - ◇山瀬町・川田町・三山村の一部が合併し山川町誕生、町長石本宏・人口15,387人
 - ◇森永砒素ミルク事件発生 ◇田アルミ賞発行 ◇自由民主党結成
- 昭和31年(1956)
 - ◇旧庁舎竣工
 - ◇山川青年連合会発足
 - ◇高越製紙工場操業開始(工場誘致第一号)
 - ◇日本が国際連合に加盟 ◇東海道本線全線電化開通
 - ◇文部省、初の全国学力調査実施 ◇大東京五〇〇年祭
- 昭和32年(1957)
 - ◇湯立駅を阿波山川駅と改称
 - 山瀬・川田・三山農業委員会合併
 - 川田川中央橋(木製)架かる
 - ◇五千円札発行



住民相談室を新設 [昭和36年5月]

- ◇初の人工衛星スプートニク(ソ連)打ち上げ成功
- ◇南極昭和基地建設
- 昭和33年(1958)
 - 舟戸・岩津吊り橋完成
 - 山川町消防団改組、20分団となる
 - 町第一期簡易水道完成(水道事業のはじまり)
 - 西保育所開所
 - 大阪繊維維徳島工場新設(誘致二号)
 - 山瀬小が町内で初めて完全給食実施
 - ◇関門トンネル開通 ◇小中学校で道徳教育始まる
 - ◇二万円札発行 ◇東京タワー完工
- 昭和34年(1959)
 - 山川町史発刊
 - ◇皇太子・正田美智子御成婚
 - ◇ソ連宇宙ロケット史上初の月面到達 ◇伊勢湾台風
 - ◇メートル法実施 ◇国民年金法施行



第1回山川町社会福祉大会(川田中小) [昭和37年4月30日]

- 昭和35年(1960)
 - 山川町中央水道完成
 - 国勢調査・人口14,265人
 - ◇チリ地震震津波太平洋沿岸に襲撃 ◇安保闘争始まる
 - ◇国民所得倍増計画決定 ◇電気冷蔵庫普及
 - ◇カラー放送開始
- 昭和36年(1961)
 - 川田川・蜷川・宇島川が決壊し床上浸水数百戸
 - 山川町社会福祉協議会発足
 - 老人ホーム「芳越荘」開所
 - ◇アメリカ民主党ケネディ大統領就任
 - ◇ソ連初の人工衛星「ヴォストーク」打ち上げ(ガガーリン少佐)
 - ◇東ドイツ、東西ベルリン境界封鎖(ベルリンの壁)
 - ◇第二室戸台風、最大風速室戸で84.6メートル
- 昭和37年(1962)
 - 製紙企業組合設立



川田川中央橋完成 [昭和39年1月20日]

- 昭和38年(1963)
 - 山川町心配ごと相談所開所
 - ◇新千円札発行
 - ◇アメリカ、ケネディ大統領暗殺事件
 - ◇日本・アメリカ間テレビ宇宙中継実験成功
 - ◇テレビ宇宙中継に成功
- 昭和39年(1964)
 - 山川町善意銀行発足
 - 川田川中央橋(山川中央橋)開通
 - ◇名神高速道路全通 ◇東海道新幹線開業
 - ◇東京オリンピックビッグ大会開催

(●は町内の主な出来事 ◇は国内外の主な出来事)

合併当時の庁舎と組織

あゆみ始めたころ。山川町政を支えた庁舎と組織。

スタートは旧町役場。

昭和三十年一月二日の合併当初、新庁舎完成までの間、山川町役場は旧山川町役場に置き、旧山瀬町役場は直接住民に係のある戸籍・住民登録・納税・配給諸証明の事務を行うことになった。発足当時の職員定数は事務吏員五十二名、技術吏員二名、その他の職員二十八名の計八十二名であった。

なお、山川町の合併当初の人口は一万五、三七八人、世帯数は三、〇六七戸、総面積は四十二・三平方キロメートルだった。（昭和三十年十月の国勢調査より）

事務分掌（昭和三十年十二月末）

課名	事務分担	職名	氏名
総務課	庶務全般	事務吏員	富本 房雄
	庶務・議事選挙	"	住友 武雄
	消防・庶務・議事・選挙	"	長地 宏
	統計・給与関係・選挙	"	日下 照雄
	庶務・選挙	"	土肥 典子
	戸籍・人口動態・住民登録	"	松永千代治
	"	"	川端 文夫 <small>(宮地)</small>
	"	"	尾崎 幸
	"	"	関 豊子
	"	"	藤原 薫
	"	"	脇田 豊
外務	"	小使	美馬 久吉
"	"	"	田中 寛則
"	"	"	佐藤 佐吉
"	"	"	由繁 熊太
賦課	町税全般	事務吏員	宮本 與一
	"	"	貞野 三郎



川田町役場



山瀬町役場

課名	事務分担	職名	氏名
賦課	勸業配給全般	事務吏員	阿部徳太郎
	"	"	佐藤 光一
	"	"	佐藤 雅子
	"	"	谷本 汎子
	"	"	河野 国義
	"	"	中村 政行
	"	"	川端 文夫 <small>(宮地)</small>
	"	"	杉友 義治
	"	"	矢田 正幸
	"	"	中山 敏明
	"	"	原田 佑司
	"	"	住友 恵治
	"	"	原田 吉武
	"	"	林 文一
	"	"	杉友 嘉一
	"	"	宮島 陽子
	"	"	立川富美子



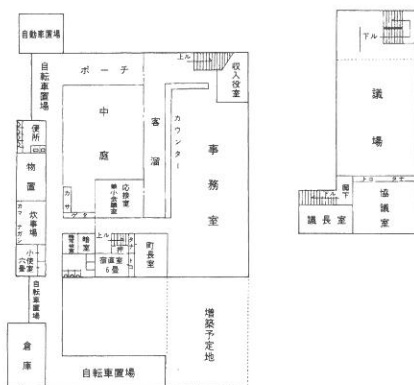
山川町役場庁舎

念願の新庁舎完成。

新庁舎建設については、昭和三十年十月に庁舎建設費八〇〇万円が議決され、同年十二月二日起工、翌三十二年六月十五日竣工、同年九月十七日から事務を行うようになった。これに伴い、旧山川町役場・旧山瀬町役場は廃止された。

課名	事務分担	職名	氏名
厚生課	厚生・衛生全般	事務吏員	高橋 要
	"	"	白山 重吉
	"	"	富谷 良行
	"	"	楠本 愛子
	"	"	佐藤 政一
	"	"	杉村 博巳
	"	"	原田 寛一
	"	"	長尾 熊一
	"	"	住友 照一
	"	"	美馬 武文
	"	"	犬伏 健
	"	"	松浦 正欧
	"	"	山口 吉美
	"	"	大坪 照市
	"	"	福田 美秋

(昭和三〇年事務報告より)



山川町庁舎平面図



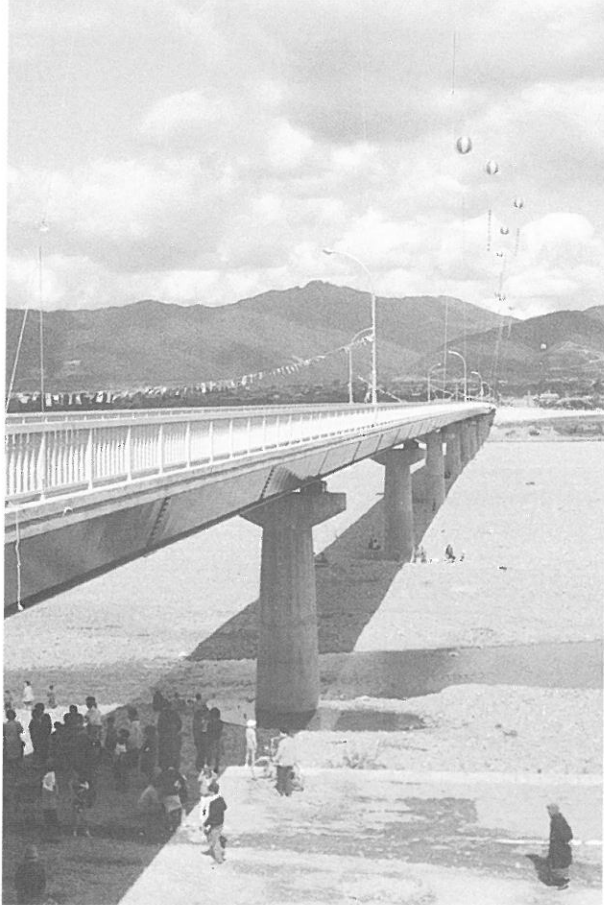
昭和40年 ▶ 昭和49年

高度経済成長のもと、 観光の町づくりを推進

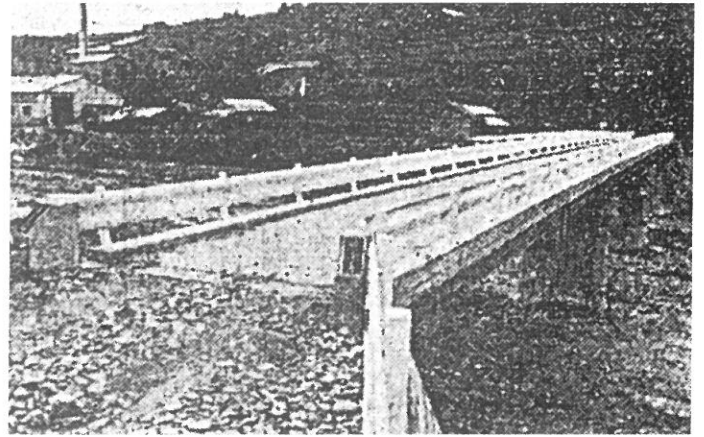
昭和40年、合併10周年を記念し、町章を制定する。

昭和46年の町長選挙では、石本悦大氏が当選、二人目の山川町長となる。

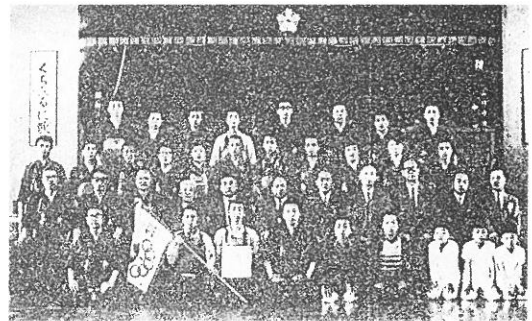
日本中が高度経済成長で目覚ましい発展を続ける中、いち早く観光産業に着目。
保養センター設立などを進めていく。



瀬詰大橋開通 [昭和41年] 写真提供：粟飯原 理代



新架設の庄司橋完成 [昭和40年3月31日]



剣道スポーツ少年団結団式 [昭和42年5月14日]



川島高校山瀬分校廃校 [昭和43年]



山川中学校完成 [昭和42年]

- 昭和40年(1965)
 - 国勢調査・人口13,530人
 - 庄司橋開通
 - 南保育所開所
 - 八坂会館設置
 - 山川町章制定
- ◇ 名神高速道路全線開通 ◇ 中国で文化大革命開始
- 昭和41年(1966)
 - 山川中学校発足
 - 瀬詰大橋開通
 - 山川町スポーツ少年団剣道部結成
- ◇ ひのえうまの年で出生前年比25%減
- ◇ 総人口一億人突破
- ◇ 定形書状最低料金15円、はがき7円

- 昭和42年(1967)
 - 山川中学校第二期工事完成
- ◇ 初の建国記念日を実施
- ◇ 第三次中東戦争でイスラエル電撃勝利
- ◇ ミニスカート大流行
- ◇ 百円硬貨発行
- ◇ ベトナム戦争拡大激化
- 昭和43年(1968)
 - 麻植開拓建設事業始まる(59年完工)
 - 川島高校山瀬分校廃校
 - 県下17年ぶりの大雪
 - ◇ 小笠原諸島復帰
 - ◇ 郵便番号制度始まる
 - ◇ 三億円強奪事件起る(東京府中)
 - ◇ 成田新空港建設反対運動激化

- 昭和44年(1969)
 - ◇ 小中学校全学年の教科書無償となる
 - ◇ 東名高速道路開通
 - ◇ 日本GNP自由諸国第2位に
 - ◇ アメリカアポロ11号月面に着陸

●は町内の主な出来事・◇は国内外の主な出来事



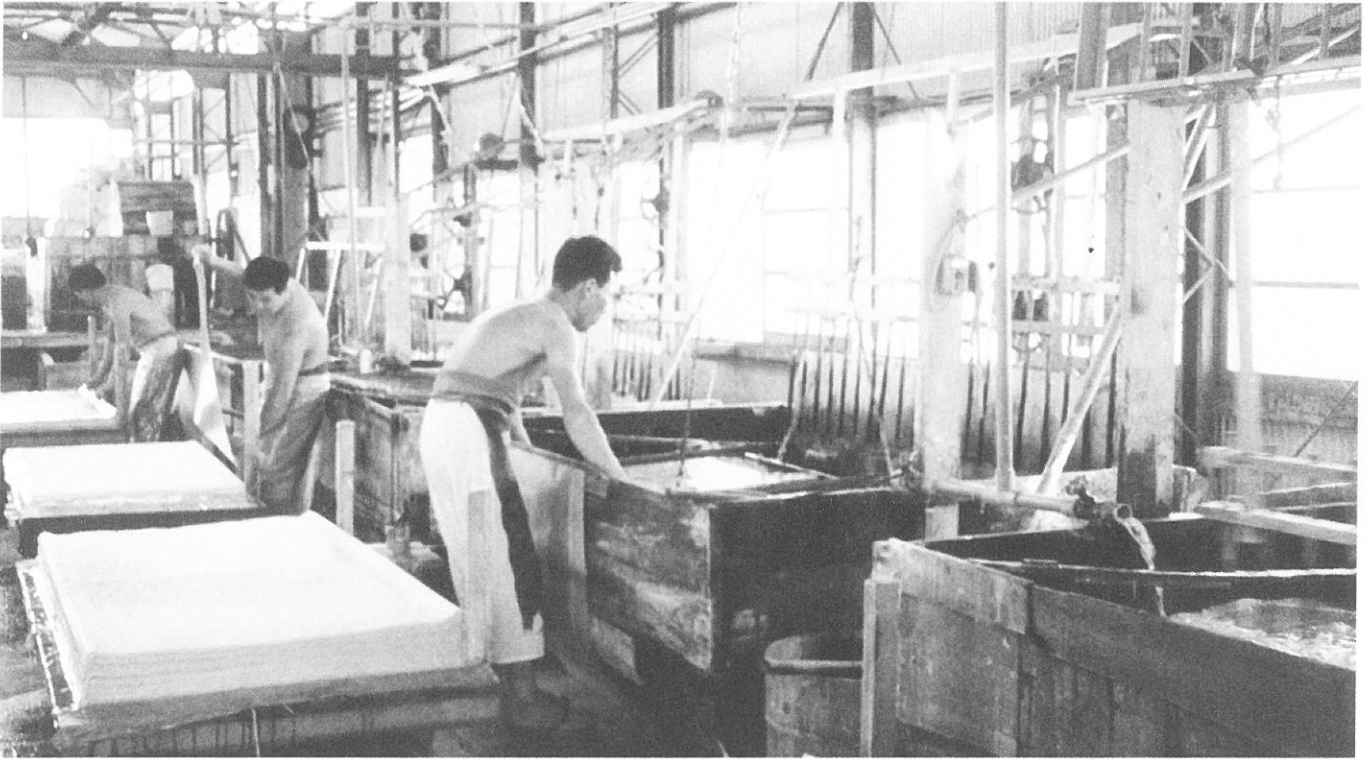
山川中学校新校舎 [昭和43年]



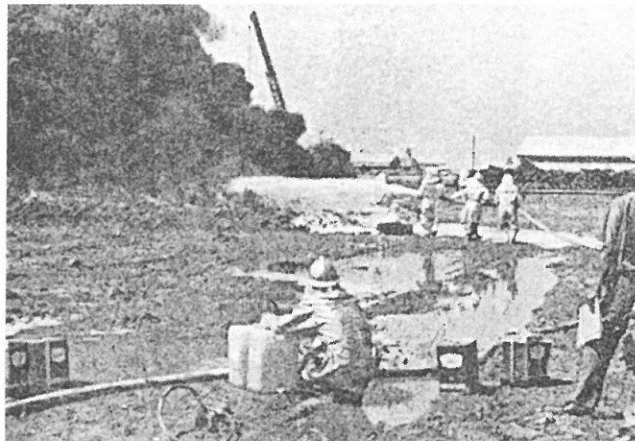
大規模開拓パイロット事業実施段階へ(川島からパイロット地区を望む) [昭和43年]



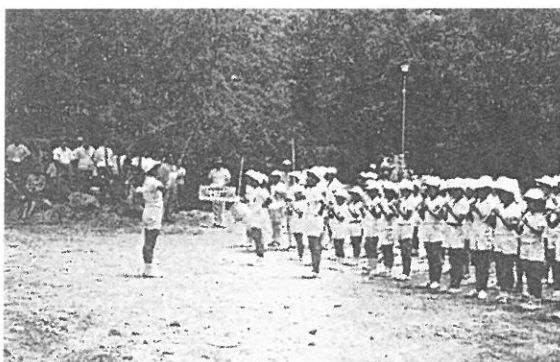
お宝踊り(川田八幡神社) [昭和41年]



手漉き和紙製造技術が無形文化財に指定される [昭和45年]



訓練にはげむ西消防署員 [昭和48年]



阿波山川温泉保養センター「ふいご荘」竣工式 [昭和48年7月7日]

- 昭和45年(1970)
 - 藤森美の手漣和紙製造技術が県無形文化財に指定される
 - 国勢調査・人口12,660人
 - ◇ 日本の呼称を「ニッポン」に統一
 - ◇ 四国内鉄道完全ダイヤゼル化
 - ◇ 日本万国博覧会開催
 - ◇ 「エビス」ハイジャック事件
- 昭和46年(1971)
 - 久宗鉱山廃業
 - 高越鉱山が鉱業権放棄し不動産を東西用水に譲渡
 - 山川町文化財保護審議会「山川町の文化財」発刊
 - 西消防署発足
 - ◇ 県下の交通事故死増加率日本一に
 - ◇ 老人人口増加が社会問題化する



全校一斉給食 [昭和48年]

- ◇ 「環境庁」発足・学校教育に公害教育を入れる
- 昭和47年(1972)
 - 急行列車が山川駅に停車するようになる
 - ◇ 沖繩本土復帰
 - ◇ 赤軍浅間山荘事件
 - ◇ 田中角栄「日本列島改造論」
 - ◇ 定形書状最低料金20円、はがき10円
 - ◇ 上野動物園でパンダ初公開
- 昭和48年(1973)
 - 阿波山川温泉保養センター「ふいご荘」落成
 - 手漣和紙製造用具が県文化財に指定される
 - 小中学校完全給食実施
 - ◇ 第一次石油危機で物価狂乱・石油ショック
 - ◇ 円の変動相場制採用



北保育所開所 [昭和49年]

- ◇ ベトナム和平協定調印
- ◇ 70歳以上の老人医療無料化
- 昭和49年(1974)
 - 山川町青年会が高越参道を実測、4,864メートル
 - 北保育所開所
 - ◇ 三木武夫総理大臣に就任
 - ◇ 民放テレビ深夜放送中止
 - ◇ 石油・電力節減対策要綱発表



第1回温泉祭り [昭和49年]

山川町章制定

町のシンボルを公募。116点の中から選ばれた町章。



丸三本は「川」を表し、中央の三角は「山」を表している。

山は霊峰・高越山、川は清流・吉野川を図案化したもので、併せて山川町の融和団結と飛躍発展を表している。

町村合併十周年を向かえた昭和四十年、町章を

制定することになり、般からデザイン案を募集した。

公募の記事が昭和四十年八月十日発行の「広報 山

川 第19号」に掲載されている。(写真参照)

その結果、町内外から二六名の応募があり、真鍋

専二氏、大谷知二氏らによる審査が行われ、入選に

当たる一等賞に岡本陽子さん(徳島市)の作品が選ば

れた。二等賞には猪井達雄さん(山川町)、古谷友彦

さん(小松島市)、三等賞には川端健水さん(徳島市)、

平尾正明さん(岡山市)、島明雄さん(美馬町)、合計

六名の入賞者が発表された。

合併山川町として はやくも十年になり 定によって町章を公 募しますから擬って 応募ください。

町=章=公=募

1. 山川町を表現するもので、パッチにも使用出来るもの。
2. ハガキ、又はハガキ大の用紙に図案と簡潔な説明を加える。
3. 宛名は「山川町社会福祉協議会」。
4. 締切りは本年九月末日とし、次号広報課に照会のこと。

報で当選者を発表する。審査の結果一等一点、二等二点、佳作若干には町より記念品を贈る。

6. 同一図案当選の場合には抽選により当選者を決定する。

7. 当選図案の使用権は山川町が持つものとする。

8. 疑義あれば町総務課に照会のこと。

「広報 山川 第19号」



「広報 山川 第20号」



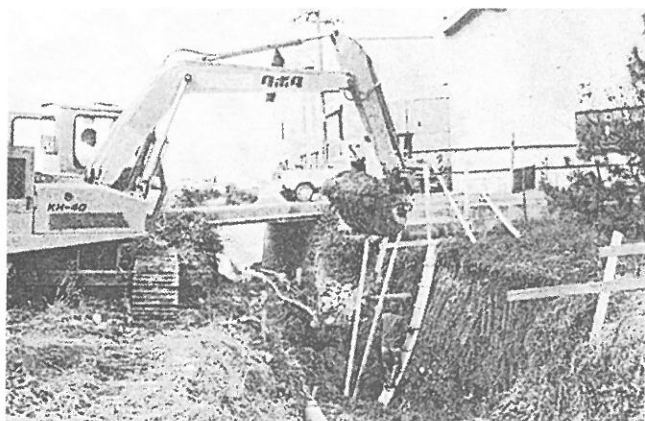
昭和50年▶昭和59年

街づくりは人材育成から。 教育施設の充実。

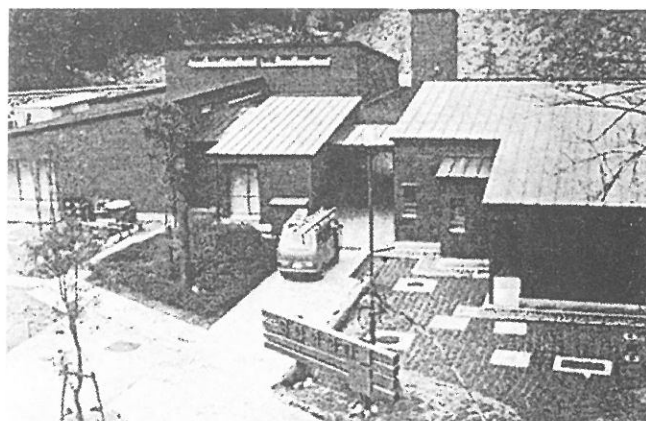
昭和52年5月、山川町字奥野井で「県立山川少年自然の家」の落成式が行われる。

また、50年代は小中学校施設の充実が積極的に図られた。

地元青少年の人材育成こそが、将来の街づくりのベースになると期待された。



改修進む大藤谷川 [昭和52年12月]



こうつの里オープン [昭和51年11月]

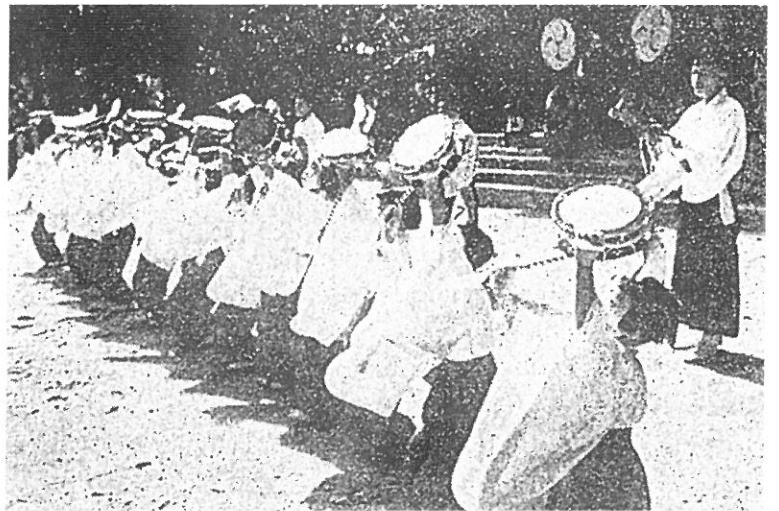


川田西小学校 [昭和52年]



山川町商工会館完成 [昭和53年]

- 昭和50年(1975)
 - 蛭川・川田川洪水で床上浸水46戸・床下浸水412戸
 - 商工会館建設
 - 国勢調査：人口12,588人
 - ◇ 過疎白書発表・全国土の41.7%が過疎地域に
 - ◇ 新幹線博多まで開通
- 昭和51年(1976)
 - 財団法人都市山村交流協会「三つこの里」開館
 - 台風17号の被害甚大
 - 八坂教育集会所設立
 - ◇ ロッキード事件発覚・田中元首相逮捕
 - ◇ 天皇即位五〇周年記念式挙行
 - ◇ 定形書状最低料金50円はがき20円
 - ◇ 学校給食に米飯導入



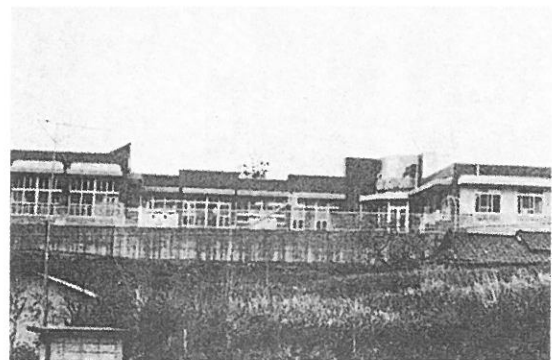
山川町神代御宝踊りが県指定無形文化財に指定される [昭和53年]

- 昭和52年(1977)
 - 「少年自然の家」開所・年間利用者26,000人
 - 「山川婦人のつどい」発足
 - 日本赤軍日航機乗っ取り事件
 - ◇ 平均寿命男子72.6歳で世界一となる(女子77.9歳)
 - ◇ カラオケブーム始まる
- 昭和53年(1978)
 - 高越製紙廃業
 - 山川町商工会館完成
 - 山川町神代御宝踊りが県無形文化財に指定される
 - ◇ 本州四国連絡橋児島1坂出ルート着工
 - ◇ 完全失業率12.4万人で戦後最高に
 - ◇ 成日空港離間山積のまま開港
 - ◇ サラ金が社会問題化



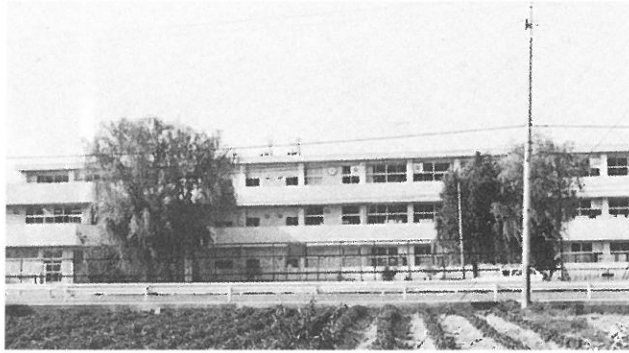
山川町公民館完成 [昭和54年3月15日]

- 昭和54年(1979)
 - 湯立会館・八坂福祉センター設置
 - 山川町公民館完成
 - 中保育所開所
 - ◇ 米中国交回復
 - ◇ 日本電気がパソコンを発売・パソコンブームの口火となる
 - ◇ 国公立大学共通一次試験始まる
 - ◇ 石油ショック・円安・物価急騰・公定歩合引き上げ



中保育所 [昭和54年]

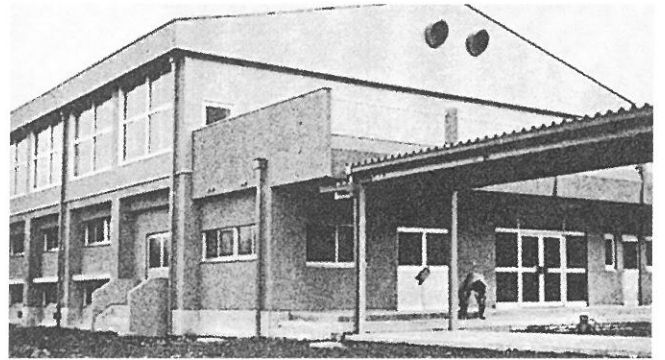
●は町内の主な出来事 ◇は国内外の主な出来事



川田西小学校校舎新築 [昭和55年]



川田駅無人化 [昭和57年]



川田西小学校体育館完成 [昭和56年]



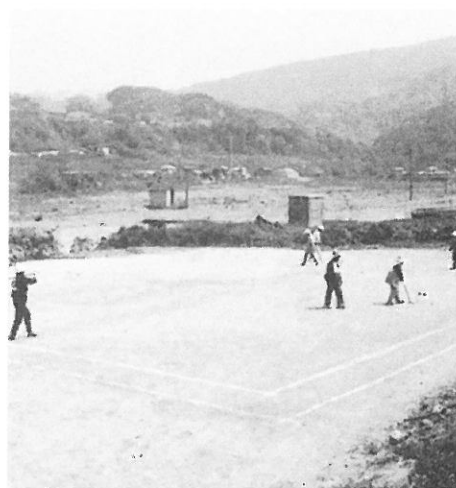
川田中小学校・幼稚園舎完成 [昭和58年2月28日]

- 昭和55年(1980)
 - 町内に大正琴・カラオケグループができる
 - 川田西小学校新築
 - ◇イン・イラク戦争始まる
 - ◇自動車生産世界一、欧米と摩擦
 - ◇校内・家庭内暴力事件続発
- 昭和56年(1981)
 - ◇北炭夕張炭坑でガス爆発
 - ◇ガンが脳卒中を抜いて死因のトップに
- 昭和57年(1982)
 - 川田駅無人化
 - ◇池田高校が甲子園で初健勝
 - ◇日航機羽田沖に墜落



川田山小学校休校 [昭和59年]

- ◇地域対策特別法施行
- ◇五百円硬貨発行
- ◇ゲートボール大流行
- ◇定形書状最低料金60円、はがき30円
- ◇校内暴力急増、社会問題となる
- 昭和58年(1983)
 - 山瀬駅無人化
 - 山川町防犯協会設立
 - 山川中・小学校・幼稚園舎完成
 - 川田中・小学校・幼稚園舎完成
 - ◇池田高校甲子園で春夏連覇
 - ◇フィリピンアキノ大統領暗殺
 - ◇大韓航空機サリン沖で撃墜
 - ◇老人保健法施行
 - ◇初の比例代表制の参院選で自民党圧勝



待望のゲートボール場完成 [昭和59年]

- 昭和59年(1984)
 - 藤森美、和紙制作により県工芸士に認定される
 - 山川町史編集始まる
 - 川田山小学校休校・西の峰分校廃校
 - ◇グリコ社長誘拐事件
 - ◇日本が世界一の長寿国に(男74.2、女79.7歳)
 - ◇千円・五千円・一万円新札発行



川田小学校校舎(元気に遊ぶ子ども達) [昭和59年5月]

ふいご温泉とこうつの里。 二人三脚の観光推進。

「ふいご温泉」から「こうつの里」に至る周辺は「ふいご温泉郷」と呼ばれ、紅簾峡・名越峡・ふいご吊橋などの景勝地が多くあります。両施設とも観光・レジャーブームに先駆け建設されており、麻植郡および周辺の観光開発への貢献は大きいといえます。



オープン当時のふいご温泉

川田川の上流、奥野井谷川との合流点にあり、周りを「際美しい溪谷に囲まれ、四季折々の景色が堪能できます。昭和四十七年のオープン以来、町内外から温泉客が絶えず、現在までに六〇万人近い方々にご利用いただいています。かつて上流にあった鉱山跡から自然に湧き出ている鉱泉水を利用した温泉で、神経痛、リウマチ、水虫、糖尿病などに効果があります。

入浴しながら近くを流れる川田川を望めるように大浴槽を配置し、サウナや打たせ湯なども設けています。また、施設全体にバリアフリー設計を取り入れ、お年寄りや体の不自由な方々にも利用しやすいように心がけています。入浴後は地元で取れた新鮮な素材を使った郷土料理も味わえます。

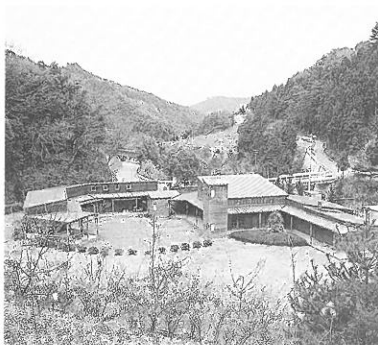
ふいご温泉
溪流のせせらぎを聞きながら、良質の温泉を味わう。



こうつの里



ふいご温泉



オープン当時のこうつの里

また草木染めやかずらを使ったカゴ作りも体験できます。さらに八月十五日から九月末にかけては、近くの農園で「観光ぶどう園」がオープンします。近年は裏山を利用して薬草も作られています。

昭和五十一年、かつて徳島県最大の金属鉱山であった高越鉱山跡に、大阪市と山川町が共同で作った勤労者のためのコミュニティ施設。温泉・宿泊施設・研修室をはじめ、民芸館・工作室・食堂・喫茶室、戸外にはテニスコート・弓道場・キャンプ場などがあります。貸テントやバンガローを備え、夏にはキャンプやバーベキューなどに若者や家族連れで賑わうほか、会社の研修会や学生サークルの合宿にも利用されています。

こうつの里
鉱山跡にできた憩いの空間



’85▶’94

昭和60年▶平成6年

やすらぎと生きがいの ある街づくり。

昭和60年、船窪ツツジ群生地が国指定天然記念物に認定される。

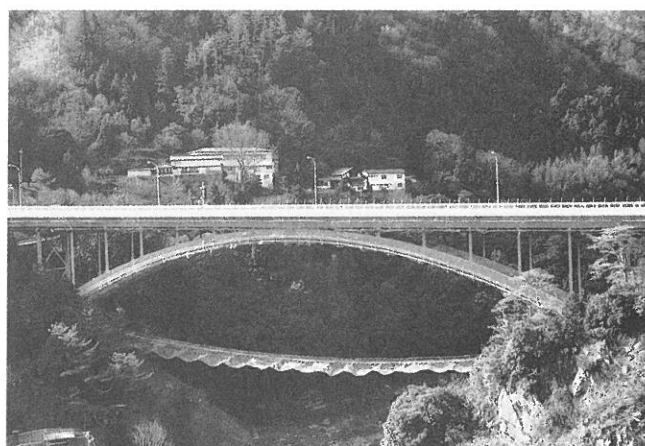
それを機に町の花と木が制定され、ツツジでの町おこしが本格化する。

また、高齢化社会に対応すべく、老人ホーム・介護支援センターが設置される。

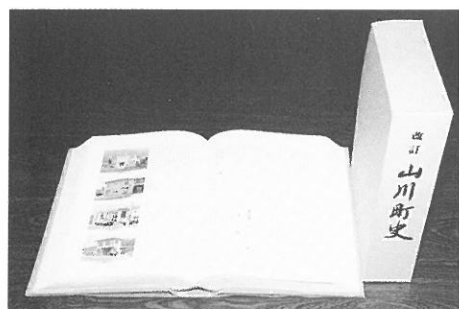
山川町合併30周年記念式典
[昭和60年6月2日]



川田中小学校 [昭和62年]



開通式間近の高越大橋 [昭和62年1月]



山川町史改訂発行 [昭和62年]



総合スポーツ運動場第一期工事完成 [昭和61年2月10日]

- 昭和60年(1985)
 - 阿波山川駅無人化
 - 船達ソシジ群生地が国指定天然記念物に
 - 新農業構造改善事業スタート(8年計画)
 - 町の花と木制定
 - ◇ 大鳴門橋開通 ◇ 日航機墜落事故
 - ◇ 「つくば科学万博」開催に2千万人が入場
 - ◇ 日本電信電話(株)と日本たばこ産業(株)発足
- 昭和61年(1986)
 - 総合スポーツ運動場第一期工事完成
 - ◇ アメリカスペースシャトル「チャレンジャー」が打ち上げ直後に空中爆発
 - ◇ ソ連・チェルノブイリ原子力発電所で事故発生
 - ◇ 伊豆大島大噴火全島民1万余人避難



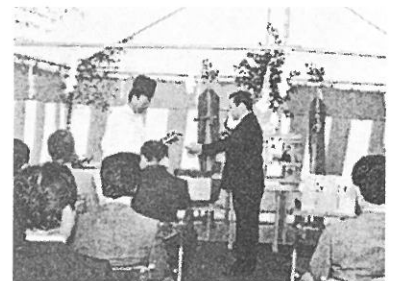
山川中学校寄宿舎「高越寮」完成
[平成元年]

- 昭和62年(1987)
 - 高越大橋開通
 - 山川勤労者体育センター完成
 - 山川町史改訂発行
 - 山瀬・川田農業協同組合合併
 - ◇ 厚生省、日本初のエイズ患者の存在発表
 - ◇ 新生J.R発足
 - ◇ NHK 24時間衛星放送開始
- 昭和63年(1988)
 - ◇ 青函トンネル開業
 - ◇ 瀬戸大橋開通 ◇ リクルート事件発覚
- 平成元年(1989)
 - 山川中学校高越寮完成



阿波和紙伝統産業会館オープン [平成元年5月15日]

- 環境センター完成
- 阿波和紙伝統産業会館オープン
- 新庁舎着工
- ◇ 昭和天皇崩御、新元号「平成」に決定
- ◇ 消費税スタート
- ◇ 中国天安門事件

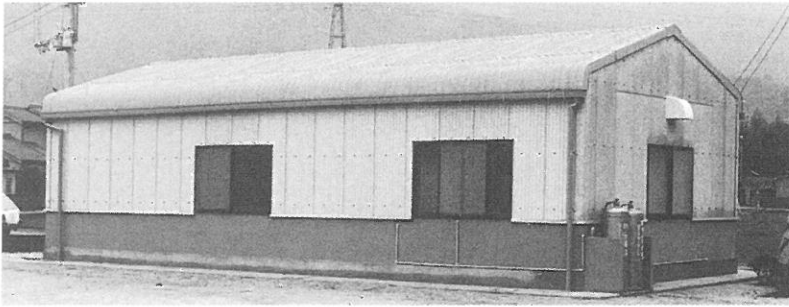


新庁舎起工式 [平成元年6月28日]



建設中の新庁舎工事
[平成元年]

(●は町内の主な出来事、◇は国内外の主な出来事)



山川町農産物加工所完成 [平成2年]



山川町高越弓道場新築落成 [平成2年3月18日]



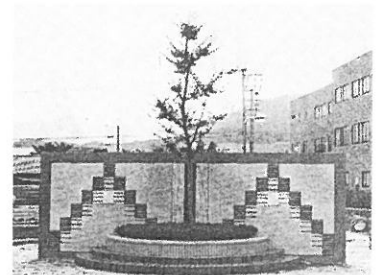
新庁舎落成式 [平成2年7月]



山川町新庁舎完成 [平成2年]



山川町消防会館完成 [平成3年12月]



庁舎周辺整備竣工 [平成3年]



山川町案内板設置 [平成3年]

- 平成2年(1990)
 - 高越弓道場完成
 - 山川町農村情報連絡施設完成
 - 新庁舎竣工
 - ◇統一ドイツ誕生 ◇天皇陛下「即位の礼」
- 平成3年(1991)
 - 消防会館完成
 - ◇湾岸戦争地上戦突入、終結
 - ◇牛肉オレジン輸入自由化スタート
 - ◇雲仙普賢岳爆発 ◇ソ連崩壊
- 平成4年(1992)
 - ◇「脳死は人の死」脳死臨調答申
 - ◇PKO法案可決成立



南保育所新築落成 [平成4年]

- 平成5年(1993)
 - ◇学校週休二日制スタート
 - ◇スペースシャトル「エンデバー」打ち上げ、日本人宇宙飛行士毛利衛さん搭乗
 - 川田橋・岩津橋開通
 - アメニティセンター完成
 - 老人ホーム「芳越荘」完成
 - ◇EC統合市場発足
 - ◇日本プロサッカーリーグ開幕
 - ◇皇太子殿下・雅子さま御成婚
- 平成6年(1994)
 - 特別養護老人ホーム・介護支援センター開所
 - デイサービスセンター開所



川田橋開通 [平成5年6月1日]

- ◇アメリカスペースシャトル打ち上げ、初の日本人女性飛行士向井千秋さん宇宙へ
- ◇関西新国際空港開港



岩津橋開通 [平成5年9月28日]



美山荘・つつじ荘オープン [平成6年4月1日]

山川町の橋

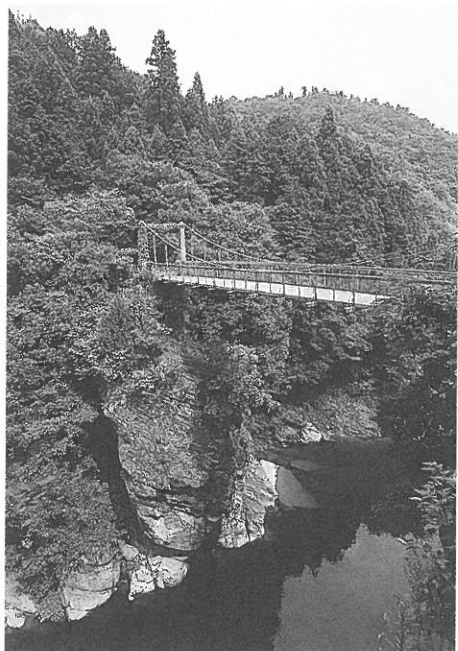
吉野川に橋を架けることが夢の時代があった。

瀬詰大橋

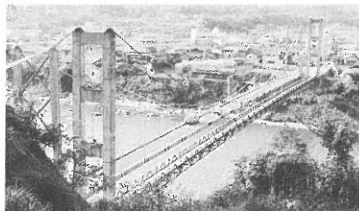
瀬詰大橋の前進は潜水橋(沈下橋)で、昭和二十五年五月に竣工した。しかし当時需要の高かった木材の輸送に道路整備が欠かせず、特に吉野川への天候に左右されない架橋設備が周辺町村からも熱望された。そのため潜水橋完成からわずか六年後の昭和四十一年に、現在の瀬詰大橋が竣工する。これにより遠く県南に通じる四国横断の大動脈が完成し、国道一九二号との連絡により、京阪神への輸送も容易となった。

岩津橋

昭和三十三年八月竣工。この吊橋のおかげで、鳴門・西条線と徳島・西条線が結び付き、交通量が増加した。しかしこの橋は歩道橋で人と二輪車しか通ることができなかった。昭和四十年代に入り自家用車が増加すると、自動車も通れる橋の建設が期待された。そこで昭和四十四年、西側に併設の橋が起工され、同四十六年十月に完成した。現在の橋は平成五年九月に開通したもので、全国でも珍しいデザインの片つり斜張橋である。



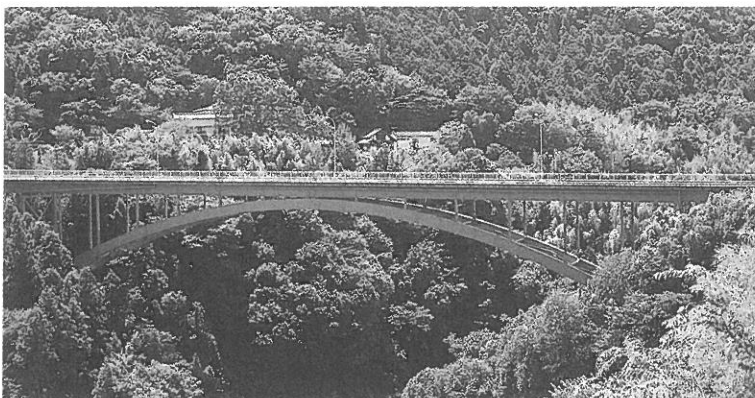
ふいご吊り橋



岩津橋



瀬詰大橋



高越大橋

高越大橋

著しい交通量の増加、車両の大形化、川田橋(昭和十年架設)の老朽化などから高越大橋が計画され、昭和六十二年二月、真つ赤な橋が架設された。この橋は経済性・美観性に優れた構造上のバランスもよく走行性に優れている。高越大橋の完成により、川田橋周辺の混雑が大幅に解消され、生活道路としてはもとより、町内の産業・文化・観光方面にわたって、大きな活力を与えている。

ふいご吊橋

ふいご温泉から見える吊橋は、古くから「ふいご橋」と呼ばれている。かつてこの川の上流に、日本の銅の産出を誇った名越鉾山があり、鉾夫の通勤用に架けられたのがこの橋で、当時精錬に使われていた轆あひらからこの名がつけられた。このあたりは川田川渓谷の最も美しいところで、橋のあたりは深い碧をたたえた淵となっている。紅葉のころには、特に美しい景観を見せてくれる。



'05 ▶ '04

平成7年 ▶ 平成16年

山川町から吉野川市へ。 21世紀のバトンタッチ。

国際化社会、情報化社会への移行や環境問題への対応など、
より複雑・多岐に渡る町行政が求められる中、
町民と一体になった町政が展開されてきた。
そして平成16年10月、50年間の町制時代に幕が下りる。



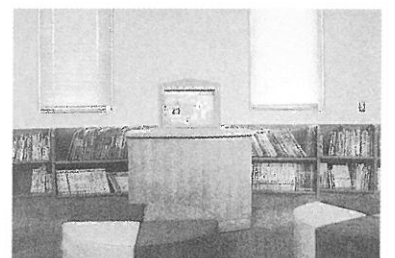
瀬詰教育集会所落成 [平成7年]



山川町合併40周年記念式典 [平成7年]

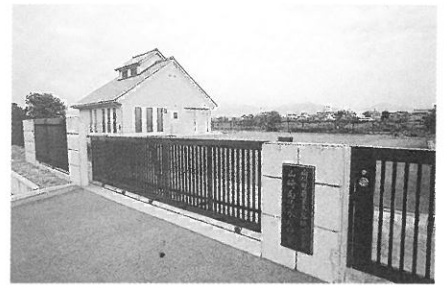


ふいごつり橋完成 [平成8年5月17日]



図書館落成 [平成9年4月1日]

- 平成7年(1995)
 - 瀬話教育集会所完成
 - アメニティセンター作業室完成
 - ◇阪神・淡路大震災
 - ◇地下鉄サリン事件
- 平成8年(1996)
 - ふいでり橋完成
 - ◇O-157食中毒事件
 - ◇薬害エイズ事件
 - ◇若田光一さんスペースシャトル「エンデバー」で宇宙の旅へ出発
- 平成9年(1997)
 - 図書館落成
 - 集排山崎南処理場供用開始



山崎南処理場供用開始
[平成9年4月]

- ◇イギリスでクローン羊誕生
- ◇神戸市須磨区小学生殺害事件
- ◇香港・中国に返還
- ◇ポケモン騒動
- 平成10年(1998)
 - 元気山川ネットワーク設立
 - ◇長野冬季オリンピック開催
 - ◇金融ビッグバン
- 平成11年(1999)
 - 各学校にパソコン導入
 - 地域振興券交付
 - ◇ヨーロッパ通貨統合による単一通貨ユーロ誕生
 - ◇日本初の脳死臓器移植手術
 - ◇国旗国歌法公布施行



ザンビア大使が来町、
町民との交流を深める
[平成9年7月27日] アメニティセンター



元気やまかわネットワーク設立総会
[平成10年6月21日]



第一回 山川町一人暮らし高齢者等ミニ運動会



交付を最初に受ける中野茂雄さん

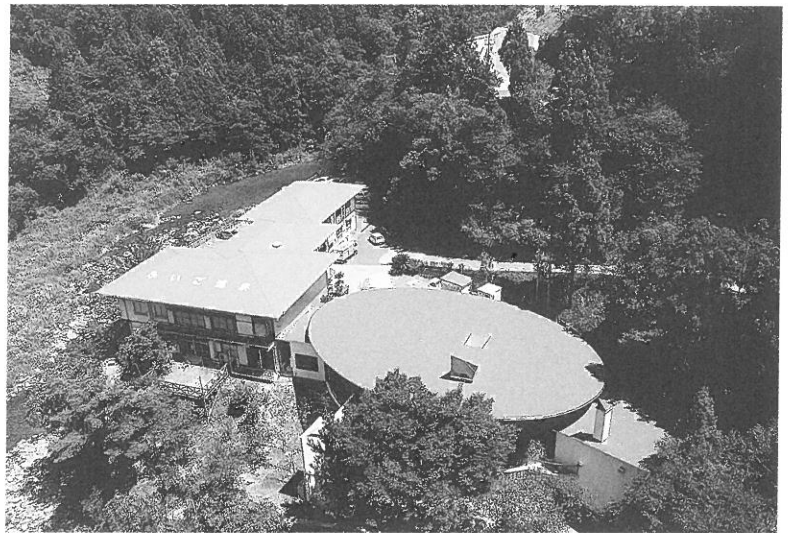


地域振興券交付開始 [平成11年3月25日]

●は町内の主な出来事◇は国内外の主な出来事



ふいご温泉落成式 [平成12年3月1日]



ふいご温泉風呂棟完成 [平成12年2月25日]



シドニーオリンピックマラソン日本代表
犬伏孝行選手 壮行会 [平成12年3月27日]



第16回全国健康福祉祭徳島大会「ねんりんピック徳島2003」ベタンク交流大会開催
[平成15年10月19日・20日]



山水会川田中部第2クラブ
専用グラウンド完成 [平成15年9月]



- 平成12年(2000)
 - 心いご温泉落成
 - 大伏孝行選手シドニーオリンピックマラソンに出場
 - ◇ 介護保険制度スタート
 - ◇ シドニーオリンピック大会
 - ◇ デジタル放送開始

- 平成13年(2001)
 - 徳島駅伝麻植郡選手団優勝
 - 高齢者生活支援ハウス完成
 - ◇ 家電リサイクル法施行
 - ◇ 皇太子夫妻に第1子誕生
 - ◇ 宇和島水産高校の実習船が米海重原子力潜水艦と衝突し沈没
 - ◇ 米国同時多発テロ事件
 - ◇ 野依良治ノーベル化学賞

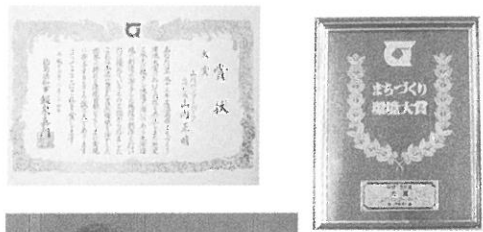
- 平成14年(2002)
 - 麻植郡合併協議会設立
 - 山川バンブーパーク完成
 - 川田北地区農業集落排水事業
 - 川田北クリーンセンター完成使用開始
 - ◇ サッカーW杯日韓共催
 - ◇ 住民基本台帳ネットワーク
 - ◇ 小柴昌俊ノーベル物理学賞
 - ◇ 田中耕一ノーベル化学賞

- 平成15年(2003)
 - 山内正晴氏三選 町長就任
 - 山川町第4次総合振興計画策定
 - ねんりんピックへタンク交流大会
 - 合併協定書調印式
 - ◇ 宮城県沖で地震
 - ◇ 阪神18年ぶりセリーグ優勝

- 平成16年(2004)
 - 山川町土地開発公社解散認可
 - 山川町開庁記念式
 - ◇ 消費税総額表示価格スタート
 - ◇ アテネオリンピック大会
 - ◇ 新潟で集中豪雨



防火パレード [平成15年11月]



山川バンブーパーク徳島県まちづくり環境大賞受賞 [平成16年2月24日]

山川町と共に50年。

私たち山川町誕生の年に生まれました。



昭和30年9月20日生

岡田 久美子

昔は螢川がすごくきれいでした。その名の通り蛍もたくさん飛んでいましたが、今では全然見られなくなりました。この辺りは住宅もずいぶん増えて、景色も変わってしまいましたし、その分蛍の生息できるところが無くなつてしまったのかもしれないね。螢川を見るたびに時代の移り変わりを感じます。新市になつても自然と共存できる山川であつて欲しいと思います。



昭和30年6月8日生

真鍋 美仁

私の通った小学校は木造の校舎で、給食もありませんでした。家が近かったものですから、昼ご飯は食べに帰っていました。水泳の授業も吉野川に泳ぎに行っていましたし、運動会では運動靴が無かったので、皆スリッポンを履いていました。全てが懐かしく大切な思い出として胸に焼き付いています。半世紀にわたる山川の歴史は幕をおろしますが、これまでに育んできた郷土愛や、豊かな自然、町民のあたたかい心は、新市になつても受けついで欲しいと願っています。そして吉野川市の発展を、心から期待しています。



中学校時代の集合写真



山川中学校運動会 [昭和44年]



川田小学校運動会 [昭和38年]



中学校での学年朝会



友だちと高越山へ



山川の歴史は

人の歴史。

豊かな自然とゆつくりと流れていく時間の中で、
生まれ育った人たちがいる。
悠久の歴史と誇り高き文化の里で、
育まれ磨かれたその人たちの活躍は、
町の歴史に、日本の歴史に大きな足跡を残した。
それは歴史のページに刻まれ、
永遠に風化することは無いだろう。

山川町に生まれた偉大なる政治家

芳川 顕正

Akimasa Yoshikawa

天保12年(1841)～大正9年(1920)

伊藤博文に英語を教えた彼は、日本の舵取りを学ぶため、海を渡った。

現在の山川町川田北島の地に、山川町民が誇りとする芳川顕正の生家がある。葉葺きの母屋だけで、家の庭には生け垣と榎樫の原木が当時のまま残されている。この家は伯爵の偉大な業績を顕彰するため永久に保存することにしましたので、屋内には伯爵の木像並びに遺品の数々が展示されている。

天保十二年(八四)十二月十日、川田北島の医師・原田民部の四男(五人兄弟の末っ子)として生まれた顕正は、幼名を賢吉といい、幼年時代は、頭脳は優秀であったものの、わんぱくぶりが激しく、屋敷にある木に登って道行く人のオシッコの雨を降らせたというエピソードが残っている。

十六歳の時、徳島へ出て医学・漢学を学ぶ。二十一歳で長崎へ遊学するも病気のため帰郷。二十四歳で再び長崎に赴き、英学の研究を始める。翌年二度目の長崎行きを決行し、この時、吉村壮蔵なる若者に二ヶ月間英語を教える。この人物こそ後の内閣総理大臣、伊藤博文その人であった。その後、薩摩藩に招かれ海軍所の賓客として航海・数学・兵略などの翻訳にあたり、この頃、姓を芳川健吉、越山と号した。

時代は急変し、薩長を主軸とする明治中央政府が樹立される。一旦徳島に帰った顕正だったが、再び薩藩に招かれ、大砲の操作や発射演習をするなど、薩藩と阿波藩の友好を図った。明治三年(八七)三十歳、ついに薩藩を辞して

東京に赴く。そこでアメリカへ渡ろうとしていた参議・伊藤博文に出会い、伊藤は彼の同行を計る。帰国後再び渡英、銀行制度・紙幣製造について研究、やがて紙幣権頭として国立銀行を起こす。明治十五年(八八)内務少輔東京府知事となり、大都市の持つ難問題を次々に解決した。

明治二十三年(八九)五月、文部大臣となり、十月にはかの有名な「教育勅語」を發布。翌年、文部大臣を辞任して山川町に帰省した顕正を迎えたのは、彼の姿を二目見ようと押しかけた数百人の村民たちだった。昼は歓迎の宴、夜は盆踊りが催され、これに対し

て顕正は、小学生には鉛筆を、また夜には酒樽を開けて、村中の店から手拭い・かんざしを買いに集め、人々にふるまったという。

明治二十六年には司法大臣に任命され、以後明治三十七年(九〇)まで内務大臣、通信大臣など合計八回にわたって大臣を

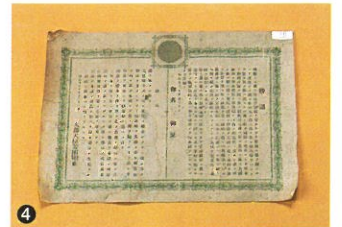
歴任。その後は貴族院議員、国学院大学長など七十九歳まで国の要職を務め、大正九年二月十日に八十歳でこの世を去る。時に従一位勲等伯爵、墓は、東京都港区青山霊園にある。

顕正は、明治以降の政治家の中で右に出る者がいないであろうと言われるほど詩文の才能に優れ、その著者「越山遺稿」(山田貢郵編)は生家に保存されている。また、書家としても山川町内の第一人者で、生家・町内の小学校・川島高等学校などに作品が残されている。





- ① 官界で活躍していた頃の芳川顕正
- ② 顕正が幼い頃に遊んだ庭と生家外観
- ③ 生家で保存・展示されている顕正の書や遺品の数々
- ④ 明治23年(1890)に発布された「教育勅語」
- ⑤ 芳川顕正伯爵が知人にあてた手紙
- ⑥ 達筆で知られた顕正の書
- ⑦ 顕正は詩文の才能にも優れていた





平成
生まれ

川田小学校6年
荒瀬 恵人

以前、友達が事故に遭いました。吉野川市になると交通量も増えてくると思うので、交通安全が行き届いた事故の少ない街になって欲しいと思います。また、新市になって公園や遊べる施設が増えると嬉しいなと思います。



平成
生まれ

山川中学校3年
生徒会副会長
明石 季恵

先日山川町役場で子ども議会が開かれ、山川中学からも生徒会等の生徒が参加しました。色々な質問がありましたが、私は防災対策に対しての質問をしました。その理由は、以前南海大地震の話題がテレビなどで騒がれていたからです。新市には防災対策が万全な市民が安心して暮らせるまちづくりを、推進して欲しいと思います。また、4町村が仲良くして、一体感のある吉野川市になって欲しいと思います。



昭和
生まれ

消費者協会会長
近藤 久子

消費者協会の活動は、講師を招いて後援会を催したり、健康のための料理教室を開いたり、悪徳商法にだまされないようにと高齢者に呼びかけたりすることです。新市になれば、各地域の消費者協会が交流を深めて、互いに良いところは吸収し、より良い活動ができればいいなと思います。また今の山川町には、中心部が移ることで、取り残されるような事にならないことを願っています。



平成
生まれ

山瀬小学校6年
山下 沙希

新しい市になったら、もっと発展して欲しいと思います。しかしその反面、生活するのは今の山川町がいいかなと思います。仕事や買い物はもっと都会的で、生活するのはおだやかな、そんな吉野川市になればいいなと思います。



昭和
生まれ

山川中学校PTA会長
伊勢 英利

これからを担うのは、間違いなく今の子どもたちです。吉野川市には、そんな子どもたちが夢を見つけやすい環境づくり等、創意工夫をして欲しいと思います。今の子どもたちは我々と違う感覚を持っていますが、それは時代や周りの環境が違うので、仕方がないのかも知れません。しかし、子どもたちの意見にも耳を傾けてやり、子どもたちが自由に発言できるためにも、地域住民がより結束を強め、豊かなこころを育める教育環境を我々が築かなければならないのだと思います。

恩人の言葉

恩人…助けてくれた人。恩恵を施してくれた人。

行政



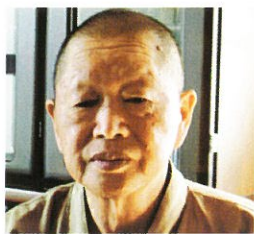
前山川町長

池上 敬治

4期町長職を努めさせて頂きましたが、その中で一番苦労したのは、私の前の町長時代からの懸案事項でした。ゴミ処理及びゴミ処理場の建設に関する事です。先代をはじめ関係者の皆様には心から感謝申し上げます。

新市になりましたも、市民一人ひとりが高い意識を持つて、よりよい環境づくりに努めて頂きたいと思います。また、市民の目線で物事を考えられる吉野川市になるように願っています。

行政



前助役

木内 義弘

合併後の新町建設計画の進む中、地区改善事業、教育の推進に取り組み、ゴミ処理場の設置については、長い時間と努力を重ね平成元年に完成することができました。

総務課、厚生課などを経て、はからずも助役に選任され、退職前には、お高越さんのよく見える新庁舎で仕事が出来て大変幸せでした。

新市になっても山川町の特徴を出し、自然、名勝、遺跡、文化伝統を継承融合し、住民サービスが低下することなく、自治会、団体組織の意見、民心を吸収し、世代を越えて、夢つむぐまちをつくってくださる。

教育



元教育長

大栗 春雄

昭和20年から教職に携わっていましたが、昔の教育には厳しさがあり、経済的な理由から家の手伝いをするなど、子どもたちにも自主性が合ったように思います。その点今の子どもたちは自由に見えますが、知らない物も多いように思います。同窓会にもよく招かれますが、そこで出てくる話題にもそのような内容が多いように感じます。

時代の流れは否めないにしても、色々な面において大切なものは守り続けて貰いたいですね。

産業



阿波スピンドル社長

木村 悟

山崎村と瀬詰村が一緒になって山瀬町になり、山瀬と川田が一緒になって山川町になったのが、昭和30年。その後50年の時を経て吉野川市が誕生しますが、前述のような編成を経て今日があるわけです。そして、新市を良くするのも、悪くするのも、地域住民一人ひとりの考え方や頑張りにかかっていると思います。

これから起こる問題を含めて、決して眼を背けずに皆で解決し活性化していくことが、新市の未来展望に直結しているのだと理解して、協力しあう事が重要ではないでしょうか。

行政

元総務課長

富本 房雄



昭和11年に川田町役場に就職し、その後戦争が始まりますが、終戦後は再び川田町役場に再就職しました。そして昭和30年の合併により山川町が誕生しますが、合併の準備業務に携わったことを、今でもよく思い出します。その後、高度成長期を迎え、庁舎内での事務の改善に力を注ぎました。昭和36年には室戸台風に遭遇し大変心配しましたが、大事に至らなかったことは幸いでした。

今振り返って見ますと、私は良い時代に勤めさせていただいたと思っています。

合併はとても喜ばしく思いますが、吉野川市になれば、組織の強化、業務の効率化等を推進し、何より財政の健全な市になって欲しいと思います。

教育

元学校長

原田 一美



川田山・山瀬小学校での教員時代に、子どもたちと一緒に成長させて貰った気がします。戦後の混乱期を子どもたちと過ごしましたから、復興は教育の場からといった考え方の重要性を、強く感じたものです。

高学歴、少子化による昨今の教育現場では、昔のような絶対的な信頼関係が、働かなくなっているのかも知れませんが、教育者としての基本は何も変わりません。

吉野川市には、質の高い教育環境づくりを推し進めていただくことを願っています。

保健福祉

社会福祉法人博友会理事長

尾賀 俊吉



皆さんご存じの通り、高齢化は加速し続けています。新市になることで不安を感じるのには、エリアの境が無くなることによる、福祉サービスの低下がおこらないかということ。しかし、それを行政に望むのではなく、我々が自己改革をして、いかに地域にサービス提供できるかだと思います。

財務面を含めて体質改善を図り、質の向上に努めていくことが、福祉事業の大きな課題で、吉野川市になって我々が、まず向き合わなければならない事だと考えます。

文化

徳島県無形民俗文化財指定
神代お宝踊り 保存会

伊井 勇



千年あまりの歴史があるといわれる県無形民俗文化財の神代「お宝踊り」に関わってきました。

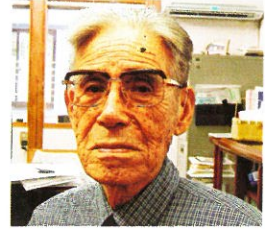
保存会では、少子高齢化に伴って後継者が少なくなりつつも育ってきています。こうした地域の伝統文化が無くならないように、後世へ受けついでいくことが我々の使命であり、今後の皆さんの役目です。

新市をあげて地方の民俗文化を守り続けてくださることを願っています。

文化

阿波和紙伝統工芸士

藤森 實



色々な言い伝えもあるようですが、いつ頃からこの辺りで和紙づくりが広まったのか、確かなものは無いようです。川田川のきれいな水を利用できるので、この辺りで和紙づくりが盛んになったのではないのでしょうか。私の記憶している限りでは、私が小学校当時に使っていた教科書やノートも既に洋紙でした。そして戦後の高度成長期に紙の需要が急勾配で伸び、手漉きの紙では需要に対して生産が追いつかなくなり、和紙も機械漉きの時代へと移り変わっていきます。

紙は必要に応じてその地域に誕生したものだと思っています。日本人である限り、手作りの良さを理解し、和紙文化も継承していつて欲しいと願っています。

スポーツ

シドニーオリンピックマラソン選手

犬伏 孝行

山川町では、中学生まで過ごしました。当時私はサッカー少年だったのですが、高校へ上がると同時に長距離を始め、今日に至っています。

思い出深い山川町と麻植という名前が無くなってしまうのは、少し寂しく感じますが、吉野川市には今までの麻植郡以上にスポーツや駅伝などにも力を注いで欲しいと思います。特に若い世代の人たちには、スポーツに限ったことではありませんが、夢を持って頑張つて頂きたいです。

私もここしばらく故障等で悩まされましたが、また皆様の前で元気に頑張りたいと思います。



スポーツ

プロ野球 日本ハムファイターズ 選手

加藤 竜人



山川町で生まれ育った私は、小・中学校と地元の少年野球チームで野球をしていました。当時、山川地区には、私が在籍していた川田パンダースと、山川イーグルス、山瀬ファイターズという3つのチームがあり、殆ど力は互角で、大きな大会でもその3チームは大体上位にいたことを覚えていきます。

これからの子どもたちには、夢に向かって努力し続けられれば、必ずいつかその夢は叶えられるのだということを知ってもらって、何事も決してあきらめないで頑張つて欲しいと思います。そして吉野川市には子どもたちに、高校・大学、そして実業団や、できればプロたちの本物の野球を見せてあげられる企画などを考えていただいて、子どもたちに夢を与えてくだされば嬉しく思います。

未来へ。21世紀の主役たち

私たちのステージは21世紀の吉野川市!!



未来へ
川田西小学校6年 谷奥 沙和乃

私は、新しくできる吉野川市に、自然豊かで、人や動物がくらしやすい、心があたたかい市になってほしいです。

そして、吉野川市に、私の夢である動物愛護協会をつくりたいです。のら犬やのら猫、苦しんでいる動物たちを助けて、やさしい飼い主を見つけてあげたいです。

それに、差別もなく、人権を大切に作る市を、みんなで協力して作りあげていきたいです。一人だけではできなくても、みんなが協力していけば、きっと、そんな市ができあがると思います。

でも、人権がきずつけられたり、動物が苦しんだりするのは、なぜでしょう。それは、たぶん、何も考えず、人を見くだしたり、その後どうなるかわかっていても、動物を平気で捨てたりする人がいるからでしょう。そんな人も、協力してがんばっている人を見れば、きっと変わるでしょう。協力する力は、それだけ強いんだと思います。もっとがんばって、すばらしい市を作りあげていきたいです。



「この思い出を大切に」
山川中学校3年 寒川 功也

僕は14年間、この豊かな自然と温かい人々でいっぱいの山川町で育ってきた。そんな自分の夢は、教師になることだ。

これまでに僕は多くの素晴らしい先生方と出会い、生きていく上で大切なこと、一人の人間として大切なことなど、さまざまなことを教えていただいた。その熱心な指導は僕の心に深く残っている。

僕も、そんな教師になりたい。たとえば、命の大切さや、友達の大事さを、生徒一人ひとりの心にしっかりと届くまで教えたい。

この夢を実現させるために、これまで、そしてこれからの人との出会いを大切にしていきたい。また、勉強もきちんと教えられるように、学習面もがんばっていきたい。

僕は、たくさんの素晴らしい人たちと出会えたこの町に感謝している。この町に生まれていなければこの夢はもたなかったと思う。

新しく吉野川市が誕生するが、これからもこの気持ちを忘れず、夢に向かって努力していきたい。



私たちの吉野川市
川田中小学校6年 藤本 茂子

私たちの住んでいる山川町は、10月1日から吉野川市になります。吉野川は、私たちの町の北部を流れ、昔から、私たちのくらしに恵みをあたえてきてくれました。

また、南部には阿波富士と呼ばれる、高越山があり、豊かな緑や自然がいっぱいです。私は、この美しい町が好きです。

私は、よく吉野川ぞいにあるパンプパークに行き遊びます。そこには、トンボ池などの自然観察広場があってみんなに親しまれています。

私の将来の夢は、婦人警官になってこの町を守ることです。お年よりも子どもも安心してくらせる安全な町にしたいと思っています。

これからも、吉野川と高越の美しい町、人々の心のふれあうあたたかい町にしていきたいと思っています。



住みよい吉野川市へ
川田小学校6年 谷本 彩香

今年の10月1日から4つの町村で、「吉野川市」になります。どんな市になるか楽しみです。

わたしは、ごみがなく、住みよい吉野川市にしていきたいです。汚い川や道路にならないように、一人一人がごみを捨てないように心がけ、だれが見ても通っても、「吉野川市は、きれいだなあ。」と言われるようにしていきたいです。

また、みんな平等で差別のない市にしたいです。そのためには、みんな一人一人顔や考え方がちがうように、そのちがうことを認め、大切にしていけば、安心して暮らせる市になると思います。

わたしたちみんなで気をつけて、だれもが夢をもって楽しく暮らせる吉野川市にしていきたいです。



あとつぎ 山瀬小学校5年 露口 麻緒

わたしの両親は、山川町で「みのや」というたこ焼きの店を開いています。わたしは、父と母がやっている店のあとをつぎ、りっぱなたこ焼き屋にして、父や母や兄にとってもいい暮らしをしてほしいと願っています。

しかし、昔はいろいろな夢をもっていました。マクドナルドのアルバイトや銀行員の仕事、外国への留学などです。けれど、まだ他にもいろいろな夢があるかなと考えているうちに、両親がやっているたこ焼き屋を思いつきました。すると、今までの夢よりだいぶいいと思えてきたのです。

うちのたこ焼きは、「おいしい」と評判です。だから、今自分にできることは手伝っています。それは本当にたこ焼き屋になりたいのか、家族を楽にしたいからなのかはわかりませんが、とにかく両親のあとをつぎたいという気持ちは変わらないので、がんばりたいです。

太古の山川町

27基の古墳群が語り始めたとき、
耳を傾けた人に見えてくるのは太古の昔。それとも…

山川町の原点

町内には二十七基の古墳が発見されており、全て円墳で堅穴式のものが一基ある以外は横穴式である。川田川東部から忌部山にかけて多く分布しており、古墳時代後期(六〜七世紀)のものも推定されている。

最も大きいものは境谷古墳で、底径十メートル、高さ三メートル。主な出土品として、銀環・勾玉・管玉・刀剣・冑馬具・須恵器破片・土器などが見つかっている。

このことから、この地方において古墳時代後期には強力な指導力を持った支配者の下で、多くの庶民が生活していたことがわかる。なお、残存する古墳で、ほぼその原形をとどめているものは境谷古墳と忌部古墳群一号墳、二号墳の三基にすぎない。

山川町と忌部氏

山川町内には、大和、奈良、平安時代にかけて阿波の国の殖産開発に力を注いだとされる忌部氏に関する多くの伝承がある。「古事記」や「日本書紀」などに



境谷古墳



忌部山古墳



西ノ原古墳



金勝寺古墳

よれば、忌部氏が祭祀を司つて、わが国の創建に参画したことが記されている。忌部氏は、木綿、麻、織布などの生産力を背景に、朝廷において大きな勢力を占めていた。

大和の朝廷は、肥沃な土地を求めて忌部氏の一族を阿波の国に遣わし、穀や麻の種を植えさせた。その子孫が阿波国にとどまり、大嘗の年には木綿、麻布などを貢いでいる。古い文献によると郡名を麻植と名付けたのはこのためであると書かれている。忌部氏は中世の末に、四国平定の野望を抱いた長曾我部元親によつて滅ぼされるまで、忌部神社を中心に永く権威を保持していた。忌部神社は阿波忌部の祖神とされている天日鷲命を阿波開拓の先端地であるこの地に祭つたもの。現在のJR山瀬駅の東南約一キロ、自然石の階段を登った忌部山の中腹に位置し、松と桜の古木に囲まれて建っている。神殿は現在地より一〇〇メートルほど上にあつたが、十八世紀頃の地震により山崩れがあり現在地に建立。昭和四十三年には鉄筋建てとなった。

魅力再発見。

町の名前は変わっても、
山も川も木も花も自然は何も変わらない。
ここに住む人もまた、
あつもの暮らしを続けていくだろう。
そんな山川町の現在の魅力を紹介しよう。



名越峡

ふいご吊橋のやや上流、川田川と奥野井谷川が合流する辺り。奥野井谷川の水が川田川に落ちる場所を「銚子淵」と呼び、古くから龍神が住むという伝説があります。今でも断崖の上に龍神を祭る祠があり、人々の厚い信仰を集めています。



紅簾峡

ふいご吊橋の両岸にある紅色の巨岩は、「紅簾片岩」と呼ばれる変成岩で、日本屈指の大きさを誇ります。今は苔に包まれているが、新しい切れ口は紅の簾(すだれ)を垂らしたように美しく、この名の由来となっています。



徳島県立少年自然の家

宿泊定員は宿泊棟240名、キャンプ場50名。天体観測室、プラネタリウムのほか多くの設備が完備されています。昭和52年のオープン以来、県内の多くの小中学生を迎え入れています。



観光ブドウ園

昭和38年、県下で初めて山川町三島地区に観光農園がオープンしました。現在では「観光ブドウ園」として、毎年甘いぶどうが豊かに実ります。8月15日から9月30日まで、家族連れを中心に多くの人々がぶどう狩りに訪れます。



おとめの滝

吉野川の支流、川田川にそそぎ込む奥野井谷川にかかる落差約8メートルの滝。2段に分かれて落ちる滝だが、上段と下段の間は数mの間がある。両段ともに滝壺がある。



蛭ヶ滝

川田川の支流、奥野井谷川に注ぎ込む谷に懸かる、落差約13メートルの滝。岩壁の奥に落ちる滝で滝壺もある。滝口には大きめの岩が挟まっていて、水はその岩の上や下を伝って落ちている。



西川田の大楠

吉野川の堤防、楠木神社の境内にある樹齢300年余り、高さ20m、周囲21mの大楠。井田の大楠とともに名木に数えられています。楠木神社は楠木神ともいい、祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)であり、白羽の矢を供えて祈ったと記されています。



山崎八幡神社の大イチョウ

山崎八幡神社の北東の隅にあり、樹齢数100年、周囲6.3メートル、高さ25メートル、ほうきを逆さまにしたような形がひときわ高く抜きん出て、遠方からも良く見えます。11月下旬には黄色く色つき、初霜がくると一斉に落葉します。



高越寺(仏涅槃図)

釈迦如来臨終の情景を描いたもので、鎌倉時代のものといわれています。この時代のものとしては県下唯一のもので、明治43年(1920)には国の重要文化財に指定されました。現在は京都国立博物館に保管されています。



高越寺(山門)

高越寺正面の石段の上に高くそびえる山門は、櫻(けやき)の巨木を用いた入母屋、妻入造りの二重層で、門の中央通路の両脇には、3メートル余りの朱丹に塗られた仁王像が納められています。ここからの眺望は絶景です。



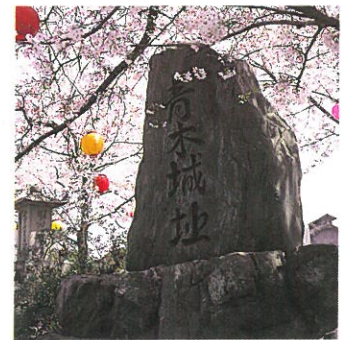
忌部神社

阿波忌部の祖神とされている天日鷲命を、阿波開拓の先進地であるこの地に祭ったものです。現在のJR山瀬駅の東南約1km、自然石の階段を登った忌部山の中腹に、松と桜の古木に囲まれて建っています。



川田八幡神社

毎年10月22日に行われる秋の大祭では御輿や屋台が石段を駆け上がり、「神代御宝踊り」が奉納されます。参道には露店が軒を並べ、多くの参拝客で賑わいます。



青木城址

天文3年、市原石見守兼継がこの地に築城し、東は安楽寺丸、西は太郎丸、南は中の丸、幸神丸を構えていた。現在、地域の人々によりたくさんの桜が植えられています。

概要

山川町は、吉野川のほぼ中央部に位置し、徳島市から車で約一時間、高松市からも同じく約一時間、JR徳島線が町の北部を東西に横切っています。本町の中央部を流れる川田川と吉野川沿いに平野部が広がり、全面積の40%を占めています。

明治22年、町村制の施行に伴い、山瀬村(のち山瀬町)・川田村(のち川田町)・三山村がそれぞれ置かれ、さらに昭和30年1月1日、町村合併促進法に基づいて、山瀬・川田両町と三山村の一部が合併し「山川町」が誕生。そして平成14年4月1日には鴨島町、川島町、美郷村の間で麻植郡(おえぐん)合併協議会が発足。三町一村が合併し、平成16年10月に「吉野川市」として新たなスタートを切ります。

東経134度13分58秒、北緯34度3分4秒。面積42.27平方キロメートル、人口11,904人。(平成16年8月31日現在)

町章



昭和40年10月1日制定。丸三本は「川」を表し、中央の三角は「山」を表しています。山は名山高越山、川は清流吉野川を圖案化したもので、町名のいわれを鮮やかに表現し、同時に本町の融和団結と飛躍発展を表しています。

町花・町木



町花 ツツジ



町木 オンツツジ

船窪のオンツツジ群落は約1200本。その中には樹齢300年以上、高さ5~6メートル、1株から20数本の主幹を持つ巨大なものもあります。このようなオンツツジが自然の大群落を形成しているものは他に類例がなく、学術上貴重であることから、昭和60年10月26日付で国の天然記念物に指定され、その保存を図るため「町の花」に制定しました。

山川町町制施行50周年・閉町記念誌

懐郷の想い

徳島県麻植郡山川町字翁喜台117番地
企画編集／山川町総務課
制作／株式会社 ぎょうせい



発刊にあたって

昭和30年1月1日に町村合併促進法に基づいて、山瀬・川田両町および三山村の一部が合併し、町名を「山川」として新しい町が発足してから、約50年を迎えようとしています。その間、山川町は全ての町民の皆様と共に歩んでまいりましたが、本年をもって新市に生まれかわるため閉町することとなりました。

ここにご尽力を賜りました各町村議員各位と、ご理解ご協力をいただきました住民各位に、心から謝意を表します。

私達のまちは、豊かな自然と悠久の歴史をもつ恵まれた環境の中で、町民の英知と創意によって平和で豊かな活力ある街づくりをめざしてまいりました。

本町のキャッチフレーズでありました、「豊かな心 思いやりのまち 山川町」を心に留め、今後もさらなる発展に努めていただくことを、心からお願いいたします。

この度、過去の歴史を記録に留め後世に伝えるメッセージとして、町制施行50周年・閉町記念誌を刊行することになりました。発刊にあたり貴重な資料のご提供をいただきました皆様に、心よりお礼を申し上げますと共に、ご挨拶とさせていただきます。

山川町長 山内 正晴